

Title	明治以前日本水害史年表
Sub Title	A chronological table of flood disasters before Meiji era in Japan
Author	高木, 勇夫(Takagi, Isao)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2004
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 社会科学 No.14 (2004.) ,p.1- 34
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10425830-20040000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治以前日本水害史年表

高木 勇 夫

この年表は、次の1「日本早魃霖雨史料」、2「明治以前日本土木史」、3「日本災害史」、4「災害事典」に記載されている水害に関する記録を取りまとめたものである。ここで、各種の災害の中で水害史を取り上げたのは、歴史的に見て水害が日本人にとって最も身近な災害であることによる。縄文時代晩期あたりから、人々の生活と生産の舞台がそれまでの台地、丘陵地、山地から低地に拡大することによって、河川氾濫や高潮など水との戦いが始まる。それ以降、水害は日本人にとって最も身近な災害となった。そのため、水害に関する多くの文書が残されてきた。これら多くの文書をまとめた史料の中でもっとも充実しているものは、1の「日本早魃霖雨史料」である。この報告では、この「日本早魃霖雨史料」に記載される水害関連記述を基礎に、他の史料から記載事項を補った。

この年表の時期を明治以前に限定したのは、明治以降の資料が極めて多くなるためであり、さらには前近代の伝統的農業社会において水害の発生は、農地の拡大・開発と表裏の関係にあるとの考え方によっている。すなわち、沖積低地における水害は、そこに人間の生活と生産の場が形成されることによって引き起こされるのであって、沖積低地を流れる河川が氾濫するのは自然現象として当然なものである。そのような観点に立てば、水害の歴史は農地開発の歴史と連動しているとも言える。

しかし、通時的にみれば前近代の伝統的農業社会は明治以降も続いており、水害の歴史から見れば破堤による外水氾濫は1959（昭和34）年の伊勢湾台風まで続いたと言える。1959年以降になると水害の様態は、都市型の内水氾濫へ大きく変容する。1959年の伊勢湾台風は、それまでの農村型の外水氾濫から都市型の内水氾濫への転換という大きな意味をもっている。その点でこの年表は、不十分なものといわねばならない。出来るだけ早い時点で明治以降現在までの水害を組み込んだものにする予定である。

発 生 時 期	記 事	出 典
567 (欽明28) 年	諸国大水・飢饉	3
623 (推古31) 年	霖雨洪水	1
636 (舒明8) 年	霖雨大水 (5月)	1
652 (白雉3) 年	連雨洪水。損壞宅屋傷害田苗, 人及牛馬溺死 (4月)	1
691 (持統5) 年	大和並諸国霖雨, 洪水 (6月)	1
707 (慶雲4) 年	畿内霖雨 (5月)	1
709 (和銅2) 年	河内, 摂津, 山背, 伊豆, 甲斐諸国霖雨。連雨損苗	1
741 (天平13) 年	佐渡霖雨。有傷民産, 免当年田租調庸 (8月)	1
750 (天平勝宝2) 年	京都洪水, 茨田堤決潰	2
758 (天平宝字2) 年	鬼怒川氾濫, 二千余頃の良田荒廢	2
761 (天平宝字5) 年	荒玉川洪水, 破堤三百余丈	2
762 (天平宝字6) 年	伊勢並諸国洪水 (9月)	1
772 (宝龜3) 年	淀川洪水, 茨田堤・淡川堤決潰	2
796 (延暦15) 年	近畿諸国霖雨, 水損。大和国山崩水溢 (8月)	1
799 (延暦18) 年	畿内霖雨, 大水 (4月)	1
806 (大同1) 年	諸国霖雨。霖雨不止, 洪流汎濫, 天下諸国多被害 (8月)	1
815 (弘仁6) 年	近畿諸国霖雨, 水害。是歳, 自五月及九月霖雨, 諸国多被其害焉	
825 (天長2) 年	富士川洪水	1
857 (天安1) 年	京都霖雨, 洪水。京中水溢, 洪水汎濫, 道橋流絶, 河堤斷決 (5月)	2
858 (天安2) 年	京都大雨, 洪水。大雨, 洪水汎濫, 河流盛溢, 水勢滔々, 平地浩々, 橋梁斷絶, 道路成川, 流死者衆矣 (5月)	1
859 (貞観1) 年	京都大雨, 洪水 (6月)	1
860 (貞観2) 年	近畿諸国大風雨。鴨川, 桂川洪水	1
867 (貞観9) 年	京都大雨, 洪水。往還難通 (5月)	2
871 (貞観13) 年	京都霖雨。河水瀑溢, 京師道橋流損者衆, 壞人廬舎不知其数 (8月)	1
874 (貞観16) 年	京都霖雨。但馬国水損	1
878 (元慶2) 年	京都陰雨。河水瀑溢 (9月)	1
887 (仁和3) 年	京都霖雨, 飢饉。賀茂川・葛野川汎濫	1
889 (寛平1) 年	京都霖雨, 洪水 (6, 7月)	1
896 (寛平8) 年	京都洪水。洪水泛溢, 農欲流損 (5月)	1, 2
909 (延喜9) 年	京都大雨, 洪水。大雨, 道路如海 (6月)。洪水 (5月)	1
911 (延喜11) 年	京都霖雨, 洪水。京都洪水泛溢 (6月)	1
918 (延喜18) 年	賀茂川・淀川汎濫	1
924 (延長2) 年	京都洪水, 鴨河往還不通 (5月)	1
929 (延長7) 年	京都陰雨, 洪水。夜中洪水汎濫, 東西京七条以下車馬不通, 皇城	2

明治以前日本水害史年表

		以南田畝如海, 穀種流漂, 溺死者多 (8月)	
948	(天曆2) 年	畿内霖雨。河水汎溢 (8月)	1
949	(天曆3) 年	京都霖雨。東西河水汎溢 (8月)	1
959	(天徳3) 年	京都霖雨, 洪水。洪水入京都 (5月)	1
962	(応和2) 年	京都霖雨, 洪水。洪水泛溢, 京路不通, 鴨河堤壞破 (5月)	1
966	(康保3) 年	京都霖雨, 洪水。五六条及西河渺々如海 (8月)	1
968	(安和1) 年	京都霖雨。河水盈溢, 往反不通 (5月)	1
989	(永祚1) 年	畿内風水害, 大阪湾の高潮, 賀茂川洪水	1
998	(長徳4) 年	京都霖雨, 洪水。依霖雨一条堤壞, 鴨河橫流, 入府如海	3, 4
1000	(長保2) 年	京都霖雨, 洪水。夜来大雨, 鴨河堤絶, 河水入洛, 京極以西人宇多以流損, 就中左相府不別庭池, 汎溢如海 (8月)	1
1017	(寛仁1) 年	京都霖雨, 洪水。終日甚雨, 従去夕鴨河水汎溢, 富小路以东已如海云々。通夜深雨, 京極辺如海云々。京極大路・富小通等如巨海, 京極辺宅皆以流損 (7月)	1
1031	(長元4) 年	京都霖雨。軒廊御卜, 霖雨洪水之故也 (9月)	1
1034	(長元7) 年	京都霖雨, 洪水。連々降雨, 水田多流損 (7月)	1
1062	(康平5) 年	陸奥霖雨。源頼義改衣川柵, 時霖雨久不止河水漲軍士不得渡 (8月)	1
1092	(寛治6) 年	東国霖雨。東京旁溢, 二千人許与魚鼈云々 (8月)	1
1098	(承徳2) 年	京都霖雨, 洪水。河水泛溢也 (5月), 鴨河泛溢, 押流河原人家等 (6月)	1
1101	(康和3) 年	京都霖雨。霖雨久降, 国土損亡	1
1105	(長治2) 年	京都霖雨, 洪水。数日霖雨, 一天優歟, 宫廷變池, 道路成川, 往反之者於事有煩, 就中, 院御所鳥羽, 洪水殊甚, 鴨河・桂河共以泛溢, 已及御倉, 御物頗以湿損云々 (5月)	1
1118	(元永1) 年	京都霖雨, 洪水。雨脚頗下, 近水之人多没死 (6月)	1
1125	(天治2) 年	諸国霖雨, 洪水。天下多損亡云々 (8, 9月), 近江打出浜水出事 (9月)	1
1127	(大治2) 年	京都並諸国霖雨。連日雨下, 諸国多有損亡聞 (9月)	1
1129	(大治4) 年	京都霖雨, 大水。河水大出, 民戸成憂云々 (7月)	1
1134	(長承3) 年	近畿諸国霖雨, 洪水。世間河水大出, 河原小屋, 皆以流損, 京中堀川西洞院河大出, 有流死者, 近代如此洪水, 未曾有 (5月)。京中路頭, 往反不通, 七道五畿, 有此愁 (5月)	1
1172	(承安2) 年	京都霖雨, 洪水。今日, 洪水殊甚, 六波羅辺人家少々流了 (5月)。河辺人家, 多流損 (5月)	1
1175	(安元1) 年	京都霖雨, 洪水。甚雨, 年穀多流損, 民烟太歎悲 (6月)	1
1199	(正治1) 年	揖斐川洪水	1
1201	(建仁1) 年	關東大風雨	2

發 生 時 期	記 事	出 典
1210 (承元4) 年	諸国霖雨,洪水。諸国作物損亡 (7月)	1
1212 (建曆2) 年	諸国並鎌倉霖雨,洪水。雨降,凡此間洪水,河渴辺人家為水底云々 (5月)	1
1227 (安貞1) 年	鎌倉霖雨,洪水。凡日来霖雨涉旬,所々洪水,河辺田畠流失云々 (6月)	1
1230 (寛喜2) 年	賀茂川氾濫	2
1231 (寛喜3) 年	京都霖雨,洪水。此間霖雨之後洪水,鴨川浸兩岸□□世以号云川原死骸充岸 (6月)	1
1281 (弘安4) 年	九州北部大風雨	3, 4
1287 (弘安10) 年	京都霖雨,洪水。雨降,霖雨不止,鴻水有其難,其次向二条河条曆覽鴻水,大略如滔水,青苗流夫,諸庄園損亡 (5月)	1
1313 (正和2) 年	京都霖雨,洪水 (6月)	1
1321 (元亨2) 年	京都霖雨,洪水。河水氾濫 (5月)	1
1335 (建武) 年	京都霖雨。霖雨連旬,黯雲掩天,而成破塊暴声,流洪汎雄勢,衆庶群物之損害 (6月)	1
1345 (貞和1) 年	京都霖雨。昼夜雖暫時無間斷,仍忽洪水蕩々,処々河水盈溢,屋舍田園多以漂泊云々,京中今出川并堀川西洞院川等又以溢,京中無水大路等皆以如江河 (7月)	1
1347 (貞和3) 年	京都霖雨。御前辺何条御事候哉,霖雨過法候,所々水損滿耳候 (5月)。畿内以外洪水云々 (5月)	1
1353 (文和2) 年	諸国霖雨。定然洪水歟 (8月)	1
1354 (文和3) 年	諸国霖雨,洪水	1
1355 (文和4) 年	諸国霖雨,洪水	1
1356 (延文1) 年	京都加賀霖雨洪水。先日洪水,宇治橋落了,至橋柱悉流失,又真木島三分二流失云,又石山座主僧正坊後山崩,門流失,頻々蛇出歟云々 (8月)。依大洪水宮究路崩失,平等寺并市在家皆流失 (3月)	1
1423 (応永30) 年	京都並諸国霖雨,損亡。雨降,此間霖雨洪水出 (5月)。霖雨長降,天下悉損 (7月)	1
1443 (嘉吉3) 年	京都霖雨,洪水 (3月)	1
1448 (文安5) 年	近畿諸国霖雨,洪水。大雨長降,天下大水損頗多,此年又瀬田橋落 (5,9月)。依洪水,在々所々死亡輩等 (7月)	1
1451 (宝徳3) 年	京都大雨,洪水 (6月)	1
1460 (寛正1) 年	京都並諸国霖雨。五畿七道之河堤決折 (6月)。大風洪水,衆人皆憂 (8月)	1
1461 (寛正2) 年	京都淫雨。久雨洪水,洗滌洛中死屍之惡 (6月)	1
1483 (文明15) 年	京都霖雨,洪水 (5月)	1

明治以前日本水害史年表

1486 (文明18) 年	京都大雨, 洪水。邇来洪水, 於鴨川流死者, 数輩有之 (5月)	1
1487 (長享1) 年	近畿諸国霖雨。依降雨, 宮川橋落, 諸人数百人流死 (3月)	1
1488 (長享2) 年	甲斐類雨。大雨類ニ而栗皆損也	1
1498 (明応7) 年	京都並駿河霖雨, 洪水 (4, 5, 6月)。静岡県志太郡大雨洪水 (8月)	1
1501 (文亀1) 年	甲斐霖雨, 大水。作り悉水ニ成ル (6月)	1
1505 (永正2) 年	京都霖雨, 洪水 (5月)	1
1507 (永正4) 年	大井川氾濫流路変ず	2
1508 (永正5) 年	甲斐並岩代諸国霖雨。大雨類ニ而作毛言語道断悪シ	1
1510 (永正7) 年	近畿諸国霖雨, 洪水 (5月)	1
1512 (永正9) 年	富士川洪水, 石和城危険に瀕す	2
1530 (享祿3) 年	京都並美濃霖雨, 洪水。賀茂川洪水, 東堤潰, 水浸聖門師村 (6月)。根尾川洪水派流藪川を出し, 揖斐川河道を變ず沿岸地方被害多し, 此時本巢郡山口地先真桑方井水口へ切込み長瀬, 七郷のうち藪村は濤先にて一村流亡し新川となり南して揖斐川に合す (6月)	1
1528-31 (享祿年間)	北上川洪水流路変ず	2
1536 (天文5) 年	甲斐並岩代霖雨, 飢饉。福島県耶麻郡大洪水, 大川佐野の北を押し切り新橋川に合ふ, 此時迄は金上村の南を西に流る, 世俗是を白鬚水といふ, 此時又示現寺川濁川に合す, 是より川瀬荒くして新宮の旧地多く欠け落ちたり, 洪水, 塔寺坂下間水深八尺余 (6月)	1
1542 (天文11) 年	釜無川洪水	2
1544 (天文13) 年	賀茂川氾濫, 皇居浸水, 四條・五條橋流失	2
1570 (元龜1) 年	肥前霖雨, 洪水。霖雨五月雨ニモ猶マサリテ降りツツキ, 洪水漲ツテ陸地モ船ナラデハ通ヒガタリシカハ, 敵味方共ニナスワサモナクシテ日ヲ送ル (7月)	1
1580 (天正8) 年	越中霖雨, 洪水。神通川, 常願寺川洪水氾濫。秋, 霖雨連日止まず大に出水す, 旧来神通川は呉服山の麓を流れしが是時より河身東に転じ富山城後に傾注せしと云ふ, 又成願寺川も氾濫して富山城を没し, 家屋漂流し人馬の溺死算なし	1, 2
1596 (慶長1) 年	諸国霖雨, 洪水。五月九日尾濃洪水, 六月十九, 廿三日, 信甲関東洪水, 百年以来ノ大水	1
1601 (慶長6) 年	諸国霖雨, 大水。此春夏惣テ雨也, 六月十九日, 廿日大水, 此夏中アツキ事ナシ	1
1603 (慶長8) 年	京都大雨, 洪水 (4月)	1
1604 (慶長9) 年	関東大風雨, 洪水 (4月)	1
1605 (慶長10) 年	駿河, 遠江洪水。またしばしば雷風雨有りて駿遠洪水みなぎ	

発 生 時 期	記 事	出 典
	り、島田駅の民舎を押し流す、この時より島田の地は川となり民舎を東にうつさる（4月）、関東大水（8月）、美濃、尾張伊勢、近江、三河大水（7月）	1
1606（慶長11）年	近畿、東海道、関東諸国風雨、洪水。慶長十一年五月廿五日、大風雨、京辺は廿年此かたの洪水といふ、江戸城修築のため、豆州より運送の石をつみにせたる鍋島信濃守勝茂船百廿艘、加藤左馬助嘉明が船四十六艘、黒田筑前守長政が船参拾艘くつがえり破損す、関東この水害にかゝり麻大に損す。三川国関東、箒麻為之損、同大水（5月）	1
1607（慶長12）年	三河、尾張、美濃洪水。十五日、三尾濃の三国洪水、これはこの夏農民旱をうれひ、木曾川の水を田地に引入しが、大風雨を得て加納城溝の水と一になり、河戸川矢橋川どもに押し入て、所々堤防崩破し民屋を押し流す（8月）	1
1608（慶長13）年	諸国霖雨、洪水。洛中大水、河内、摂津辺堤防をこえて水おしいる、濃州より東は水害なし（6月）、中国大水、七十年来ためしなきほどの事にして、京都も水おし入、流死のものすくならず、諸国損害多し、三河より東はこの害少く（8月）	1
1609（慶長14）年	諸国霖雨、大水。東国西国洪水。諸国大水、美濃遠江両国は水かさ去年より高き事、三尺ばかりとぞ聞え（7月）	1, 2
1610（慶長15）年	東海道諸国霖雨、洪水。今日殊木曾川洪水、尾張国方堤数ヶ所切、上は矢那、富田前、をいり、下は加々の井等也（6月）	1
1611（慶長16）年	大和洪水。此ころ和州洪水、三輪山辺田圃一万石余損亡す（5月）	1
1612（慶長17）年	美濃、尾張諸国霖雨、洪水。美濃尾張大水、塩田之堤切、津島表江水入、美濃国外浜ノ堤モ切（6月）、今朝大水、美濃国曾根堤切、大垣へ水入、大垣ノ下ノ堤モ切タル間、翌日大垣水漸引（8月）。美作国此時大水出、城近辺ニテ三千稍人死、其外彼國中ニテ二千余、都合五千余死ト云々（9月）。阿部川暴漲して堤防大にくずる（8月）。富士川洪水、庵原郡蒲原六本松まで、水つく（1月）	1, 2
1613（慶長18）年	駿河、三河大雨。昨日之雨ニ水出、島田町家少々流（4月）	1
1614（慶長19）年	諸国霖雨、洪水。下京町末ノ小家流、摂津国、河内并大坂森口之堤切、彼表頃年無類大水也（4月）。去月廿八日ノ大水ニ切タル諸国堤共、打続水出ニ付テ、難築故、其儘有之上ニ、此大水ニ猶以切ル、和泉、河内、摂津国、江州、美州、尾州六ヶ国、取分如海河、大坂森口ノ堤如元ハ難成就云々（5月）、今日又大水、先度兩度之水ニ不切ケル美濃国曾根堤切テ、夜半過ニ大垣へ水入（6	

明治以前日本水害史年表

			月), 去春夏大水ヨリ高シ, 寅刻ヨリ北西ノ大風吹, 中ニモ伊勢国大水也, 河辺ハ家流, 人馬以下流死, 上方モ大水ニテ, 山城国井出ノ里ノ家卅余宇流, 大坂森口此度又堤切, 大坂森口此度又堤切, 飯森山ノ麓ヨリ近辺如湖水, 伏見京橋水越, 町中家五尺水有, 大坂天満ノ橋落 (8月)	1
1615 (元和1)	年	諸国霖雨, 洪水, 陸奥飢饉。此年大風洪水, 田島共ニ不熟		1
1617 (元和3)	年	関東洪水。大水出, 千寿 (住) 之橋如浮, 御跡勢十三騎流ル (4月)。広島大水出, 御城三の丸迄水つき申候事。飢肥領大風甚雨洪水シテ, 後町并町前津留清武ハ石切町人屋押流サレ, 溺死八十式人, 手馬其数ヲ知ラス (9月)		1
1618 (元和4)	年	京都, 会津霖雨, 洪水。市中大河起波瀾也, 東河平等大水, 田地損畢 (5月)		1
1619 (元和5)	年	諸国洪水。天下一同洪水, 田畑大損亡, 民屋漂流, 人民牛馬犬類溺事夥, 故飢死者満街 (8月)		1
1620 (元和6)	年	諸国霖雨, 洪水。大和河内洪水, 大和川の堤潰へ二万石余の地を損ず, 摂州柏原千四百石の地荒廢 (5月), 畿内西国洪水 (8月)。河内大水之由申来ル (6月)。会津多雨, 藤沢沼破, 耕作損, 民居亦亡 (4月)。福山大雨洪水 (5月)。大洪水あり, 日高川の左岸にありし山田荘名屋浦は拳村漂没 (7月)。洪水, 水位一丈一尺, 古志郡長岡西北地方氾濫す (8月)		1
1621 (元和7)	年	山城霖雨。梅津堤水越て, 置土の分クツレ, 田地ソンス, 丹波大水之由也, 家材木多流, 人数多流死スル由承候也, 桂ノ方, 田地損スル由候也 (7月)		1
1624 (寛永1)	年	利根川・荒川・千曲川洪水, 江戸浸水		2
1627 (寛永4)	年	東海道, 関東大水 (8月)		1
1630 (寛永7)	年	筑後霖雨, 洪水。入梅降り続き大洪水流家多し, 此節宰府觀世音寺伽藍倒る (5月)		1
1631 (寛永8)	年	諸国大水。関東大洪水, 堤押し切り人畜多く溺死す (9月)。会津洪水 (9月)		1
1632 (寛永9)	年	洪水。連日の大雨にて各所洪水の聞えあり (7月)		1
1633 (寛永10)	年	諸国隣雨, 洪水。大洪水, 江州水溢一丈二尺余 (4, 5, 6月)。淀川堤防延長八十間決し堂宇を傾け民家を顛壊し大字三島江及大字桂本等の耕地一円淤砂を被り, 又同郡鳥飼村の諸村に及ぼして惨害最甚し (5月)。洪水のために津島の堤防破損し, 田畑の害を受くるもの凡そ三万石 (5月)。連日の霖雨にて千寿, 浅草の辺洪水の聞えあり (6月)		1, 2
1635 (寛永12)	年	千曲川, 大和川, 斐伊川, 瀬戸川洪水		2
1636 (寛永13)	年	鳥取洪水。大雨盆を覆すが如くにして俄に大水となり流勢総		

発 生 時 期	記 事	出 典
	構の堤防を押破り市内に満溢す、水深きこと七八尺より一丈に及ぶ、民屋之が為に押流され人畜の死亡勝って計ふべからず(8月)	1
1637 (寛永14) 年	諸国大雨,洪水 (7月)	1
1639 (寛永16) 年	斐伊川,大井川洪水	2
1642 (寛永19) 年	北上川洪水,河道変じ,迫川・江合川を合流す	2
1644 (正保1) 年	武蔵霖雨,洪水。連日霖雨により六郷,千寿洪水の注進あり(8月)	1
1646 (正保3) 年	陸前,武蔵諸国大水(7月)	1
1647 (正保4) 年	仙台洪水。大雨洪水,溺死三人アリ(8月)	1
1649 (慶安2) 年	近畿大雨。大坂大雨にて大和川暴漲し,河内の赤井堤崩れ,田畝二万八千石損害す(8月)	1
1650 (慶安3) 年	九州,近畿,東海道諸国大雨,洪水。伊世,尾張,美乃洪水,大垣水不退三日,流死,一千七百人,桑名五万石余流失,死人二百三人,内四十人余助命,尾州損毛二十万石(9月)。世俗に之を寅年の洪水と称し,大垣輪中のみならず,濃州各低地は悉く洪水に埋没し,岐阜より養老まで乾地無く直接船にて往返する(9月),大垣大水に流申候覚,流ひしけ家合三千五百二軒,死人男女合千五百五十三人,牛馬合七百十疋(9月)	1, 2, 3
1653 (承応1) 年	大坂洪水。淀,大坂大水出よし注進あり(5月)	1
1653 (承応2) 年	諸国洪水。肥後国熊本洪水注進あり,八万四千六百六十石程其害蒙り,人畜多く溺死せり(8月)。大田川(広島)洪水,広島城付近破堤	1, 2
1654 (承応3) 年	諸国霖雨,大水。奥州仙台洪水にて,十五万石ばかり流失せし(6月),西国大雨洪水にて,備後福山の地一万石ばかり損亡のよし,備前の封地,洪水城内までおし入,城門橋并に士民屋舎千四五百軒,かつ田圃若干流失し,男女百五十人,牛馬二百匹溺死せしよし,日向水出て屋舎四千軒そこなはれ,城郭も破壊せしよし聞こえ上たり(8月)。備前岡山洪水(7月)	1
1658 (万治1) 年	諸国霖雨,洪水。美濃国洪水のよし(7月),大風雨にて,大坂,駿河,その他摂河播丹の公料田高汐をし入,洪水にて田圃,屋舎破損,肥後,豊後の辺洪水のよし(8月)。丹波亀山辺,摂州尼崎,播州明石洪水,京都鴨川堤破崩,水入禁裏,洛中洪水,淀城辺洪水(8月)	1
1659 (万治2) 年	諸国大雨,洪水。京大雨にて,鴨河,桂川出漲し,各所堤防破損せし,仙台南部の地洪水のよし(5月),江戸洪水,浅草浸水。久留米霖雨洪水,田畠荒蕪(夏)	1, 2

明治以前日本水害史年表

1660 (万治3)	年	諸国霖雨, 洪水。諸国洪水 (2月)。宇治, 木津, 淀川洪水, 淀大橋破壊 (7月), 日光山山中洪水, 各所石垣破損の注進, 伊勢国洪水にて, 民屋二百軒流失し, 溺死者二百人余なりと聞ゆ, また東海道は勢州まで, 関東は奥州まで洪水のよし聞ゆ (8月)	1, 2
1662 (寛文2)	年	諸国大風雨, 洪水。日光山大洪水, 川辺在家三百軒余, 流死七十余人, 馬九疋流死云 (6月)。盛岡近在大洪水, 人家押流され溺死数百人 (9月)	1
1663 (寛文3)	年	京都洪水。鴨川洪水, 堤破損のよし (6月)	1
1665 (寛文5)	年	京都洪水。京淀川洪水の注進あり (6月)	1
1666 (寛文6)	年	諸国霖雨, 洪水。伊予国大洲洪水, 土佐国大水 (3月), 水戸中川, 久慈川出水し, 橋七十, 堰, 水門等二千五百をしやぶり田畠これが為に損害 (5月), 名古屋の地大雨, 各所水溢し, 木曾川洪水し, 濃尾両国の間十五万五千三百五十石水害を蒙り, 堤防十八里余, 橋梁百廿八, 屋舎二百四十五軒, 材木五万流失し, 男女六人, 馬四疋溺没 (7, 8月) 土佐中村の地, 田畠三万石水害を蒙り, 男十人, 女廿七人, 牛馬五百七十九疋溺死し, 民屋二千三十七軒, 船十七流亡 (7月)	1
1668 (寛文8)	年	北陸洪水。加州金沢洪水, 民屋に百廿三戸流失, 男女七十人溺死 (6月)	1
1669 (寛文9)	年	北陸並近江, 出雲諸国大雨, 洪水。加賀, 田地損亡之覚, 都合五万八千六百八十石, 田地損亡之村数都合四百八十七ヶ村, 流家並溺死仕候者之覚, 九十八軒, 十人 (6月)。出雲国田畠三万六千五百余損失 (6月), 豊前中津洪水土民屋舎六十余流失, 男女十三人溺死, 肥前佐賀洪水にて屋舎八千五百十七戸顛覆し, 田圃十二万五千石余, 筑後久留米家舎二千六百六戸倒れ, 田圃八万八千四百石余, 肥前唐津屋舎五百九十五戸倒れ, 田圃一万三千石余皆水害蒙りたるよし注進 (8月)	1
1670 (寛文10)	年	近畿大風雨, 摂播国高潮害家屋949戸流失, 死者2143, 破船7323	2
1671 (寛文11)	年	関東洪水。浅草川大水, 東海道筋大水ニテ, 六郷ノ橋五十間余流レタリ (8月)	1
1673 (延宝1)	年	諸国大雨, 洪水。備前, 備後, 播磨, 因幡, 美作, 肥前, 肥後洪水の注進あり (3月)。鳥取洪水あり, 邦俗之を丑年水と言伝ふ, 郊外水深きこと地上八九尺に及べり, 郡郷の民屋流出せるもの六百九十一戸, 溺死七十余人を聞へたり (3月)。岡山旭川汎濫, 亥の刻に及びて増水量三間半, 國中損害の程度次の如く, 足軽家流潰百十三軒, 在々流潰二千七百八十八軒, 本丸之内迄水入, 士分流家潰家十七軒, 町家流潰百十三軒, 永荒凡三万二千五百三十石余, 牛馬流死百三十四, 当荒凡四万三千六百九十六石余,	

発 生 時 期	記 事	出 典
	男女死八十八人 (5, 7月)。広島沼隈諸川悉く氾濫, 田畑家畜人類の被害莫大, 草戸新田全滅す (5月)。松山石手川堤防決潰, 町内浸水甚し (6月)。	1
1674 (延宝2) 年	諸国大雨, 洪水。畿内洪水, 賀茂川桂川大水 (4月)。安芸洪水あり, 猿候橋, 京橋, 小屋橋, 神田橋等墜落す (5月)。大和川大水, 堤防切所多数あり (6月)。庄内洪水 (7月)。五畿内洪水所々に於いて人馬溺死数不知 (6月)。雲州松江洪水, 田圃損害 (7月), 美濃加納洪水にて堤防八百間破れ, 田圃二万七千石この害にかかりしよし, 水戸の領内田圃若干損失 (8月), 天竜川洪水, 利根川洪水 (8月)	1, 2
1675 (延宝3) 年	筑後霖雨, 洪水。久留米柳原堤崩る, 人馬流失す (5月)	1
1676 (延宝4) 年	諸国霖雨, 洪水。洛中洪水, 京極河原町激流如河, 小川辺已下京師人家四十余宇流, 三五条等橋流, 又白河山崩, 激水涌出, 吉田辺田畠浸水 (3月)。五畿内洪水和州, 河州, 摂州甚水, 京都賀茂川堤破, 洛中洪水, 堀川辺家多流亡 (5月)。東海道洪水 (7月)	1
1677 (延宝5) 年	日向洪水。日向高鍋大風洪水, 田畝人畜損害	1
1678 (延宝6) 年	諸国大風雨。鴨, 淀, 桂, 宇治, 大和河洪水, 土佐高知大風雨にて民屋三千九十五戸頽廢, 福岡, 佐賀, 熊本, 柳川, 久留米, 島原, 小倉, 唐津, 平戸, 天草等の地大に頽破 (8月)。伊予の地風雨にて, 堤防二百五十五間, 塩浜二百八十六間, 新田堤八百六十間破れ, 民屋二百九十三軒倒れ (7月), また堤二百七十八間, 屋舎二百七十七戸顛覆せし (8月)	1
1679 (延宝7) 年	諸国水損。加茂桂川洪水 (5月), 水戸の田圃五万八千百石余損害 (8月)	1
1680 (延宝8) 年	諸国霖雨, 洪水。東海道の国々民家流失し死傷するものすくなからず。津軽弘前土手町橋落, 三十五ヶ村水湛に相成, 田畑四万九千四百石水損溺死三十三人牛馬八十九匹水死 (8月)。神通川, 常願寺川等, 諸川一時ニ大水ニテ, 富山城下過半水也 (7月)。水位一丈六尺, 魚沼郡小千谷深池ヶ原焼失し下町を浸す, 三島郡以北蒲原郡沿岸村立一変す (7月)	1
1681 (天和1) 年	高松洪水。圧溺数百人	1
1682 (天和2) 年	諸国洪水。静岡志太郡大津, 伊太外四ヶ村被害高二千九百石 (5月)	1
1683 (天和3) 年	日光洪水 (6月)	1
1686 (貞享3) 年	多摩川洪水。六郷橋流失	2
1689 (元禄2) 年	甲斐水損。十四万石余, 水損のよし注進あり (7月)	1
1694 (元禄7) 年	富士川, 千曲川洪水	2

明治以前日本水害史年表

1698 (元禄11) 年	諸国霖雨, 洪水。水位一丈六尺, 河畔村々の堤防殆んど破壊し人家倒潰せるもの夥し。長野県小県郡大雨ありて洪水 (5月), 下塩尻村, 中島二十三戸流失し御所村又被害 (7月)。丹波洪水 (5月)	1
1701 (元禄14) 年	諸国霖雨, 洪水。勢州長島, 洪水にて堤押切, 御城中へ水押入, 勢州亀山嶺は洪水堤数百間損じ, 田畑大分水押。(8月)。仙台大雨洪水アリ (7月)。洛中大雨洪水, 河水大ニ漂レ人民多死ス (6月)。高松大風洪水 (8月)	1
1703 (元禄16) 年	仙台洪水。溺死廿余人, 田ヲ害ス (9月)	1
1704 (宝永1) 年	諸国霖雨, 洪水。利根川水かさそひ猿股の堤をやぶる, 葛西, 亀戸, 本所, 深川の辺一円に出水し人家床上, 六七尺に及ぶ, 下総古河より東は行徳, 西は浅草まで水害の及ぶ所広く溺死の者あまたあり (7月)。江戸道中筋, 川々大水, 大井川, 藤川, 阿部川, 六郷川, 天龍渡, 其外川々切舟川越し馬一切不通 (6月)。武蔵江戸, 連日大雨大洪水 (6月)。江戸及近国洪水 (8月)	1, 2
1708 (宝永5) 年	諸国洪水。酒匂川氾濫, 大口堤決す	1, 2
1712 (正徳2) 年	諸国霖雨, 洪水。兵庫川尼崎辺洪水, 田畠四万石程損毛仕候, 江戸道中川々洪水 (7, 8月)。美濃の加納水患にかかり, 民屋流失する者多し (5月), 宇治川水溢れ, 伏見のあたり水患にかかり, 大和路も洪水なり (7, 8月), 京五畿, 両国, 東海道水患 (9月)。尼崎辺武庫川洪水大破損 (8月)	1
1715 (正徳5) 年	陸前, 肥前霖雨, 洪水。大雨洪水, 仙台澱橋評定橋破壊, 人死等アリ (8月)	1
1716 (享保1) 年	諸国大水。大和河内宇治八幡木津橋本淀之辺大水, 堤方々切, 在家六七軒流申候, 川辺近所在家は床の上二三尺も水上り候由 (6月)	1
1717 (享保2) 年	関東, 東北大水。八戸藩高二万石之内五千八百三十五石損毛内田形三千五百三十五石余, 畑形二千三百石余, 流家十三軒, 山崩百五十箇所, 堤切十箇所, 落橋十二箇所 (8月)	1
1719 (享保4) 年	諸国霖雨。千曲川洪水 (8月), 八戸藩高二万石之内, 五千四百九拾八石五斗五升損毛 (9月)。仙台洪水ニ依り, 田畑十八万千六百四十石余, 其他山崩川欠橋落家流等損害アルヲ幕府ニ聞ス (8月)	1
1720 (享保5) 年	諸国大雨, 洪水。佐渡郡大洪水 (6月)。豊前豊後筑後三ヶ国洪水, 筑後久留米御城下町, 二尺計り水あがり申候, 小倉御城下豊後地より洪水流れ下り小倉御城下の橋不残落 (6月)	1
1721 (享保6) 年	諸国霖雨, 洪水。長崎大雷雨地震, 烽火山水を噴き洪水となり流家眼鏡橋に懸り洪水三十八町に汎濫し, 溺死四十八人, 流家	

発 生 時 期	記 事	出 典
	百廿軒,土蔵一棟,破損家九十六軒,流橋十四,破損橋八,破船二十二艘(7月)。摂河始メ諸国水災有之(7月)。信濃,常陸,下総,上野,下野,陸奥洪水,河内,備中,備後,伊予,但馬,播磨,近江,美濃,伊勢,三河,遠江も水害多かりしとぞ(7月)。仙台甚雨大水,澱及ヒ中瀬評定下長町四橋落ツ,洪水ニヨリ,田畠十四万五千九百六十五石余,其他家屋橋梁堤防道路山崩川欠等,一万一千八百十三所(7月)	1, 2
1722(享保7)年	四国洪水。高松藩大風洪水,品瀬海堤防悉潰,田野如海者三日,山崩谷埋民之流散溺死者百余人,牛馬亦然(6月8月)。仙台大雨洪水(4月)	1
1723(享保8)年	諸国大雨風,洪水。大坂船路飛脚往来相止み淀伏見桂川之辺洪水,江戸近辺大雨洪水,本庄筋,深川,浅草筋,柴井,豊島,板橋,王子辺洪水にて床の上へ一二尺も水あがり所によりて軒の口迄も水付申候,此外奥筋,木曾路洪水,田畠人馬損亡不知候,下野宇都宮,上総国関宿洪水,南御領地にて五万石計損毛,人も四五百人溺死仕候由,奥筋,関東筋,大風洪水在之候内下野国と陸奥国の境内福島の近所いかりと申所,在家三百軒余もあり,幅一里余に長さ三里程の処,六十三年以前洪水にて在家一軒も不残漂流其節水たゝえて湖水の如し,あぶくま川も水高く成り宇津宮ざかい千軒とて富饒の所,高三万石計の地一軒も不残,田畠永荒に成申候(8月)。大聖寺大水(8月)。丹波大洪水(8月)	1
1724(享保9)年	諸国霖雨,洪水。高松大風洪水,穀不登貢米減三万七千石(8月),仙台領大雨,高十二万石の場所皆無に成申候,所により床の上四五尺も水あがり候,江戸近辺大雨洪水(6月)	1
1725(享保10)年	諸国霖雨,洪水。五畿内洪水(4月)。江戸海道,淀,八幡辺洪水,大坂表は近年の大水にて家々の床へはせ込,橋々桁迄水越申候由。最上川洪水(5月),仙台大雨洪水,澱橋漂流(9月)	1
1727(享保12)年	諸国霖雨,洪水。浅草寺町辺も大分に押込吉原土手際迄大水つき,三谷千寿辺は家根迄水上がり家を流し人死も余程有之候,両国橋辺へ死人押流され申候,別て奥州筋も大水の由(7月)	1
1728(享保13)年	諸国大風雨,洪水。伏見淀八幡の辺は大洪水にて,二階居住仕候,処によりて家の軒の下迄も水さし申候,木津川の水一丈六尺出申候,宇治橋豊後橋の上へ水あがり,淀の城の矢狭間より水込入候躰に御座候(6月),此外東国海道川々水出,飛脚留り申候(9月)。江戸昌平,和泉,美倉,両国の諸橋流失。熊野大風雨(6月)。笛吹川日川など大洪水となる,沿岸の家屋田畠を流	

明治以前日本水害史年表

	し人畜を害し死者百五十人（6月）。千曲川洪水（7月）。八戸藩諸川洪水甚しく常水より高一丈六尺に至り田畑の水損夥し、其損毛一万四百五十二石四斗七升（8月）。洪水溢れ、昌平橋、和泉橋、新柳橋、夕方流落る、両国橋中程三十六間切流れ、新大橋西の方四十二間切る、下谷浅草の内低き所は軒端水にひたる（9月）。洪水に付、江戸川口芝金杉深川六万坪辺より死骸尋来候而受取候分、小石川水道町、牛込赤木下、古川町、改代町辺、男八十人、女二百三十五人、男女子供ともに三百三人、目白下関口、中里村辺、男八十五人、女百七十二人、男女小供ともに二百三人、根津、下谷、金杉、箕輪、浅草幡随院、鳥越新寺町辺、男百四十七人、内出家十三人、女百七十六人、男女小供ともに三百七人、房川浦に而三千五百四十人、川流死人千九百七十三人、都合七千九百八十八人程	1, 2
1730（享保15）年	諸国霖雨、洪水。高松藩大風洪水（7月）、奥郡及ヒ刈田郡洪水、男五人女四人溺死ス（8月）、刈田柴田伊具諸郡大雨洪水、田ヲ害ス、男四人女一人溺死ス、桃生郡深谷ニテ男三人、関上浜ニテ一人溺死ス、桃生郡深谷ニテ男三人、関上浜ニテ一人溺死ス（9月）	
1731（享保16）年	諸国霖雨、洪水。尾州地より善光寺街道に至て梅雨降続平地水一丈余も出申候、東国北国洪水之処（6月）、大洪水、水位一丈五尺、中魚沼郡田沢村小原分川決潰甚し、妻有荘一円数日湛水す（4月）、洪水一丈二尺（5月）	1
1732（享保17）年	諸国霖雨、洪水。西国、山陽、南海諸国、霖雨洪水、筑後国殊に甚だし、其の損害、柳河領土手崩二千四百五十余間、新田土手崩百八十余間、堰崩百二十四ヶ所、倒家十三軒、此の他、田畑は絵じて数日の間、水浸、三池領田方砂山抜荒所高七百四十石八斗一升六合、同水浸高九百七十一石二斗三升七合、紀伊領水入潮入損傷高二万六千四百四十六石余、家破壊流失三百六十二軒、溺死八人（夏）。千曲川（5月）	1
1734（享保19）年	諸国霖雨、諸国洪水。原野谷川流域氾濫し袋井宿民家浸水、床上三四尺（6月）	1
1736（元文1）年	諸国大雨、洪水。濃州高須、大雨洪水堤切、田畑并諸土屋敷町屋等迄、六七尺水湛申候、美濃国加納領、大水洪水、田畑水入村数二十九ヶ村、潰家三軒、備中国松山領、大雨洪水にて水損田畑高七千四百四十八石□斗五升五合、流家四軒、百姓潰家七十七軒、備前備中洪水御損毛、田畑高十三万千石余、潰家破壊家六百二十軒、播州赤穂、大雨洪水にて御損毛、田畑千二百三十五石、永荒、津和野、洪水御損毛、田畑高八千六百六十五石余、備中国庭	

発 生 時 期	記 事	出 典
1737 (元文2) 年	<p>瀬大雨降続洪水にて所々切、田畑水底に相成候、御損毛高之儀は相知不申候、肥州之内、強雨洪水御損之覚、田畑五千六十町六反余、高五万六千九百十八石八斗余、内田千四百四町六反余、砂入水没、内畑九百五十七町九反余石、同流家七軒、潰家四十三軒、死人二十二人 (5月)。洪水、水位一丈四尺、長岡城内溺死廿四人、民家の破壊五百戸、領内損高六万石余、新発田領損害高二万五千石、与板領損害高四千石に達す (6月)</p> <p>諸国霖雨、洪水。越後国蒲原郡三島郡岩名郡之内百十二箇村、大雨洪水にて川関砂入土手切山崩、田畑所々押切御損毛左之通、高三万二十七石二斗余、所々土手切十五ヶ所、山崩三ヶ所、潰家四軒、越後国長岡、洪水水湛御損耗之覚、高三万四千五百四十八石、山崩十一ヶ所、流家五軒、流橋八十ヶ所、越後国羽羽郡三島郡蒲原郡、大雨洪水にて水押入御損毛左之通、高三千二百三十石余、潰家三十四軒 (6月)、江州志賀高島郡之内大雨降積、湖水込上げ植付難成、御損毛二千五百四十五石 (5, 6月)、三州田原、大雨洪水、美濃国加納領、大雨洪水に付、水入 (8月)</p>	1
1738 (元文3) 年	<p>諸国霖雨、洪水。岡山洪水 (4, 6月)、佐渡藤津川の辺家一軒流失、在辺田畑流失 (4月)。広島封内洪水あり、人死するもの二十一人 (5月)。神通川大水、流失田畠凡一万九千二百四十石、人家流没六ヶ所 (5月)。高遠領中にて田畑高一万五百余石の損失あり (5月)、神通川洪水、作毛水損多し (8月)</p>	1, 2
1740 (元文4) 年	<p>諸国洪水。京師及畿内洪水、京都四条川原納涼小屋皆流失ス (6月)、京都大風雨降水、三条大橋破損ス、四条下宮川町石東西ノ人家二階マデ満水ス、又二条川原東新地六尺余水溢レリ、和州葛城川洪水五瀬村ノ民家漂流ス (7月)。高松大風洪水 (7月)、摂州多田ノ庄流レ人多死ス (6月) 堺北ノ庄流ル (8月)。高松大風洪水 (8月)</p>	1
1741 (寛保1) 年	<p>四国水損。松山御届風雨損毛都合六万五百六十九石四斗六升余 (7月)。高知潮江真如寺堤三十間ばかり切れ、人家二十余軒流失ス (6月)</p>	1
1742 (寛保2) 年	<p>関東洪水。五畿内大風雨、京都三条大橋流レ落ル、堀川石垣崩ル、淀伏見大水 (7月)。関東八州北国筋洪水、江戸赤坂御門水溢レ本所深川町支配の諸村家漂流ス、砂原藤岡小林落合岩井等ノ諸村人民溺死シ田畠漂流ス、上野下野武蔵等ノ田畠ノ水損凡八十万石余ナリ、東海道神奈川辺其外中山道北陸道筋田畑多漂没ス (8月)</p>	1, 2, 3, 4
1744 (延享1) 年	<p>諸国洪水。京都大雨洪水、一条戻り橋落チ石垣崩レ人家多ク破</p>	

明治以前日本水害史年表

		損ス（7月）。八戸常水より高きこと一丈三尺余、諸川洪水堤防崩壊及び田畑水損落橋（9月）。津軽郡洪水にて損毛二万五千五百二拾二石壹斗余	1
1745（延享2）	年	連雨洪水。雨降りつづき大洪水となる（8月）	1, 2
1746（延享4）	年	諸国洪水。摂河并関八州洪水コレ有り（8月）。仙台封内田畑、十六万八千三百石余損害アリ（6月）	1
1748（寛延1）	年	諸国洪水。仙台洪水早損等ニヨリ、田畑二十二万二千二百石余損害アル（6月）。高松藩大風洪水（7,9月）	1
1749（寛延2）	年	諸国霖雨、洪水。此前通に石壇四段目迄水来候（5月）。土佐洪水（5月）。仙台封内夏秋ノ洪水ニヨリ、三十二万石余損亡アルヲ幕府ニ聞ス、高松藩風雨洪水（6月）。小日向、小石川、浅草のほとり水あふれ、橋あまた流れおつ、姫路水害（8月）	1
1751（宝暦1）	年	仙台霖雨、洪水（6月）	1
1753（宝暦3）	年	諸国洪水。八戸藩田畑川欠青立及風損水損毛一万千八百五十二石三斗二升五合余（8月）。仙台封内洪水アリ、十八万四千余石田損アルヲ幕府ニ聞ク（11月）。島津洪水（6月）	1
1754（宝暦4）	年	諸国霖雨、洪水。山形県谷地町大水にて川通不残紅花畑方共流申候（5月）。遠野夜中に諸方の山々崩れ、其崩より水夥敷涌出て麓へ土砂を推し流し、雨水え加はり川々へ入候故何方の川も洪水也（7月）。愛媛県南宇和島郡御荘洪水にて被害あり（9月）	1
1755（宝暦5）	年	諸国大雨、洪水。肥後球磨川洪水（6月）。瀬戸山崩れ八代洪水。肥後国、追々強雨洪水、山崩損毛、破損の覚、高二十三万五千六十石潮入石砂入洗剥山崩、此内二万七千七百五十三丁余畑七千六百二十五丁余（6月）。嘉穂郡穂波山潮出る、谷々埋り、人牛馬死、大水引かざること十八九日の程也（6月）。大洪水、夜明六日三ツ半頃湛水注進、高さ凡一丈八尺、本宅前石段三ツ隠、新橋際水深さ四尺八九寸（6月）。陸奥国津軽郡当夏中雨天打続冷氣相募時分相遅れ其上八月中旬両度の霜にて大抵宜敷田畑も立枯ニ相成損毛之覚、高四万七千石之内三万四千二百八十石領内田方三万二千五百五十石余之内二千六百二十石余外ニ新田□□□高拾九万六千三百五十三石五斗二升之内損毛拾六万千三百三十石余。奥州八戸ハ大雨降続川口一丈六尺程洪水田畑水押川欠山崩有之、田畑水損川欠損毛高之覚、高二万石之内一万八千五百七十三石余、内田形一万二百四十八石余、畑形七千九百二十八石四斗六升、田畑川欠三百九十六石五斗四升（5月）。九州中国并北国加賀越前出雲但馬等霖雨洪水ニテ凶作多ク、出羽奥州辺は半作（5,6月）。大雨に而洪水、雫石川三家町裏通土	

発 生 時 期	記 事	出 典
	手を押切直に三つ家町に流入小路出を穿船にて通用既に家々の軒下迄出かけ様以の外騒動然共人馬の怪我無之候(6月)。北郡霖雨洪水アリ、二百七十二貫文余ノ田地ヲ害ス、又大雨牡鹿郡内洪水、七十八貫文余ノ田地ニ溢レ、溜穂七千七百三十束流失ス(5月)。出羽国米沢、大雨洪水付而田畑損毛并破損之覚、高三万七千七百八十石余、右洪水付村々川欠水押、田畑二千七百四十九町九反余、堰川押切二百八十六ヶ所、潰家十二軒	1, 2
1756(宝暦6)年	諸国洪水。宇治川、木津川、大坂辺洪水(10月)	1
1757(宝暦7)年	諸国洪水。東海道洪水、殊尾張甚云、北国筋も洪水(4月)。霖雨によりて尾濃の緒川汎溢し、堤防の破損するもの、尾張千三百六十一箇所、二万三千六百五十間余、美濃七十八箇所、千九百五十間余に及び、水損の村々尾濃に於て凡百五十四箇所、其中砂入り水溜り等のために皆腐となれるもの総高三十二万二千三百余石に達す、枇杷島、下小田井、比良、大野木、清須の西南地方は一帯に水を蒙り、農民飢渴に苦む(5月)。霖雨関東洪水(4,5月)。昼夜霖雨にて諸国大水秋の如し、総州古河、関宿迄大水、関東筋並東海道筋川々洪水、千住筋、本所筋、大水気也(5月)。馬見崎川暴漲、山形城下旅籠町十日町を流失す、寒河江漆山諸領亦被害あり。出羽国米沢、洪水、家中並町在川々常水二三尺より二丈三尺迄之出水御座候、又大雨、常水より二丈七尺之出水に付而、田畑并破損之覚、水押石砂入川欠田、高八万二千二百七十一石余、畑但田町六千六百八十八町六畝余、流家三百九十七軒、潰家二百九十三軒、山崩七千六百七十九ヶ所、流死人三十七人(5月)。山形南村山郡大水まし北は長崎南は上ノ山迄その間七里海となる(5月)。笛吹川出水を見るに至れり、石和地方八幡宮の西は一面の水となり附近堤防の破壊七十二間に及ぶ(5月)。天龍川大水宿方堤防切、小立野村堤切、家居水押通、二俣町にては五日間、家屋悉く浸水(5月)。北魚沼郡千谷川村民家の大破せしもの廿余戸、中蒲原郡和田村築堤破れ三年間水戸留め出来ず、家屋の流失極めて多く溺死者千名を超へ、数十里の耕地は湖沼或は河水と化し青色を見ず、西蒲原郡態ノ森村も破堤し下流数十個村は人畜の死傷、田畑の荒蕪最も著し、古志郡西野村決壊し挙て川西に移転す、北魚沼郡千谷川村地内の川筋変じ在来の川戸を小千谷町に移転す、長岡領損亡書上高六万石余(6月)。大洪水、水位一丈三尺、六月の破堤水戸口修理出来ず、被害小惨状を極む(8月)	1, 2, 3
1759(宝暦9)年	陸奥洪水。洪水ニ付御領分御損毛之高四万五千八十石と御	

明治以前日本水害史年表

		書上橋々七百程流失家二百七軒流失死人六拾人 (7月)	1
1763 (宝暦13)	年	諸国大雨, 洪水。岩手沢内地方洪水。島根邑智郡大洪水, 川本村矢谷筋日向田水大流, 矢谷筋道四千七百九十一間損流仕候 (7月)。八戸藩大雨にて所々山崩山水川々増水常水より二丈余洪水, 二万石之内一万九千七百八十一石損毛, 流家二百九十八軒, 禿家百六十二軒, 半禿家五十三軒, 埋家二十七軒, 溺死三人, 流失牛馬四十三疋 (8月)。仙台封内屢洪水アリ, 十六万石損毛 (夏秋)	1
1765 (明和2)	年	近畿, 四国洪水。鴨川洪水 (4月), 大雨, 伏見洪水, 流人家, 稲荷社辺平地三尺許, 大津辺山崩, 埋走井駄, 人馬死 (7月)。城州淀伏見洪水 (4月), 五畿内近江伊勢紀伊播磨其外諸国大風雨 (7月)	1
1766 (明和3)	年	関東連雨, 洪水。小日向小石川本所の辺, 分て水嵩増れり (7月)。江戸洪水, 小塚原浸水五尺	1, 2
1767 (明和4)	年	尾張, 三河水損。尾三の両国水害ありて民屋を漂し, 人馬流亡おほし (7月)	1
1768 (明和5)	年	近畿洪水。城州鳥羽東寺辺洪水, 今年京都西陣困窮飢餓ス (5月)。五畿内江州丹州辺洪水 (5月), 諸国風雨コレ有 (7月)。木津川洪水 (7月)	1
1769 (明和6)	年	諸国洪水。美作洪水 (6月)。山形谷地町大洪水 (6月)。水勢強く未曾有の激流にして新潟三島郡篠花村, 飯島村, 中岸村田等破堤し, 川西に移転す (7月)。岩手大槌地方大雨, 平田村, 沢村洪水所々山崩, 人家潰れ溺死あり (8月)。伊具郡丸森村洪水, 家四十二棟流失シ, 男女二十二人, 馬四匹溺死ス (9月)	1
1774 (安永3)	年	阿波大水。	1
1775 (安永4)	年	諸国霖雨, 洪水。鴨川水溢 (4月), 宇治川洪水 (5月), 鴨川洪水 (6月)。摂津大水 (6月)。洪水, 水位一丈五尺, 新潟古志郡三俵野村破堤す (8月)	1
1777 (安永6)	年	諸国大雨, 洪水。仙台大雨洪水, 民十三人, 馬四匹溺死, 家二百六損壊, 麦四百六十四万二千四百四十六束流亡, 田三十六万四千二百石余損害アリ (6月), 霖雨洪水, 西岩井桃生深谷等, 田ヲ害スル凡ソ八千三百貫余, 其他山崩レ家壊ル者多シ (7月)。出羽国米沢, 下総国印旛郡, 洪水, 奥州仙台桃生郡, 牡鹿郡洪水 (7月)。福島県耶麻郡大洪水, 享保八年の洪水より所により満水なりといふ, 大川氾濫も甚だし (6月)。山形県松川大洪水 (6月), 大風雨最上川大洪水 (6月)。洪水, 水位一丈四尺, 中魚沼郡四日村以北の地及三島郡高梨村浦村本大島村等破堤す (7月)	1
1778 (安永7)	年	関東, 東北連雨。江戸より奥州迄雨降続所々洪水にて不作	

発 生 時 期	記 事	出 典
1779 (安永8) 年	諸国霖雨, 洪水。津軽大洪水 (6月)。奥州登米佐沼, 洪水田ヲ害シ家ヲ壊ル (2月)。仙台封内大雨霖潦, 一万三千八百三十余貫文損害アリ (7月), 封内屢洪水アリ, 田二十八万余石損害アリ (11月)。洛陽大雷雨洪水 (4月), 畿内大風雨洪水, 所々大ニ破損, 田畠漂流ス (7月), 奥州仙台, 同盛岡, 羽州米沢并ニ常陸下野上総等洪水, 東海道筋ハ參州岡崎洪水, 城下近郷民家悉ク漂流シ, 田畠四十万石余漂流ス, 尾州大伯川木曾川流レ溢レテ美濃尾張一円洪水ニテ, 所々橋々皆落ル (8月)。高知大雨洪水, 天神の森, 役地堤切る (7月)。目白関口の水道溢れて, その害小日向, 小石川におよぶ, 本所もまた出水せり (8月)	1, 2
1780 (安永9) 年	諸国大雨, 洪水。江戸近在, 利根川, 荒川, 戸田川洪水, 村々人家を流し永代橋, 新大橋落る (6月)。武蔵, 上総, 下総, 上野, 下野, 常陸の国々に水あふれ, 漂溺の民屋あまた有りしによりて関東郡代, 伊奈半左衛門忠尊に仰せて窮民を賑救せらるるという (6月)。仙台封内洪水, 田二十八万二千石余損害アリ (夏)	1, 2
1781 (天明1) 年	諸国洪水。五畿内大風雨, 大坂通船十六艘水入 (7月)。日向砂土原藩封内大風雨あり, 洪水海潮並に到り, 農桑を害すること甚だしく, 民大に飢ゆ (12月)	1, 2
1782 (天明2) 年	諸国霖雨, 洪水。福岡県洪水あり, 大石水道の南扉一方は流失し額石も落下して扉開閉不可能となりしを改新して復旧せり (5月)。洛東四条鴨川洪水, 所々橋落る (6月)。春夏の際, 諸国淫雨, 洪水氾濫す (6月)。大雨し隅田川増水, 新大橋永代橋損所を生ず (9月)。津軽洪水 (6月), 風雨洪水其後大風打ちつづき霰降稲虫付ニ相成青粉多く御損毛二万千七百八十石之恩届 (7月)。仙台封内二十七万二千余石水害ス (夏)。春のほどより夏にいたり淫雨やまず, 諸国洪水の患少からず, そが中にも伊予, 土佐の地は, 別て風雨はげしく, 人畜, 田畠, 水患にかゝる事多し (6月), 暴風雨あり, 大川の水溢る (9月)	1, 2
1783 (天明3) 年	諸国霖雨, 洪水。自夏至秋連霖, 浅間岳噴火, 利根川洪水, 関東降灰 (春)。関東諸国大雨洪水田畑を損害する甚多し (7月)。陰湿多雨にて寒冷冬の如く, 関東諸川洪水 (6月)。下総国通治郡香取郡海上郡之内, 大風雨にて, 耕地一丈余之洪水にて稲草腐, 畑方は立枯れに相成候 (6月), 加州川々悉く出水, 城下侍屋敷, □□町家並橋其外在家流失, 或は水付, 田畑の方へも押流, 人馬怪我も有之体に御座候, 越中国も右同様之趣にて, 所々満水, 人家橋々も流失, 田畑も押流, 人馬怪我等も有之体に御座候得共, 委細之儀は未相知不申候間, 覚, 七十ヶ所橋流失, 四十三	1, 2

明治以前日本水害史年表

ヶ所所々山崩, 九ヶ所堺堤切, 八[欠]町家潰家, 十五軒潰土蔵, 居所水多押入破損有之, 困之堀過半地境共崩れ並侍屋敷町家不残水多押入破損所数ヶ所御座候 (7月)。犀川浅野川大橋, 小橋仮橋共不残流失, 川端之家等水壘之上或は縁床下迄溢れ込堀川町, 塩屋町, 馬場町, 浅野町辺等同断, 犀川も大橋落十三間町筋等流家或損じ家量之上或床下迄溢れ右同断, 浅野川端辺等浅野町辺等も流家多く, 両川筋に而溺死者五百人余与云々, 手取川も洪水, 鶴来村へも水付九軒流失, 宮の腰へも水付別而冬瓜町損家多く粟ヶ崎等も同断, 森下川も洪水橋落, 其外所々損所多し, 越中筋も川々洪水, 小矢部川橋も落 (7月)。神通川, 颯川洪水, 御領分馬瀬口を初め神通川辺数十ヶ所, 川除押切れ込, 御城下も過半水附 (7月)。山田川暴漲し, 常願寺川亦洪水, 上滝前堤草履田堤, 源左衛門堤破潰し, 馬瀬口村以西数村流失し怒流市中に入る, 市外尽く水となり人各行処を失ふ, 南追手橋上, 水に浸さるゝこと三尺, 人屋共に流蕩するあり, 会々神通川亦暴漲共に勢を逞ふし樹を抜き家を潰し駒見村を貫き東岩瀬に注ぎ, 御福村傍の大松流れて東岩瀬の道に到れり, 市中家を失ひしもの四百五十戸, 損傷せるもの二百六十戸, 郡村家の損傷せるもの千六百七十七戸, 人員七千七百六十三人と云 (6月)。里々の有様軒傾き壁くづれ或は潰れ, 泥砂四, 五尺, 少き処は一, 二尺なり, 日本中洪水の由, 往昔より聞伝へざる洪水也 (7月)。千住, 浅草, 小石川辺出水, 大川橋, 柳橋墮る, 小日向, 大洗堰, 石垣崩れ, 神田上水切る (6月)。関東諸州洪水, 大井川及其余川々往來止る (6月)。石川県能美郡久津村, 火釜, 岩内の堤防全部決壊し郡内恰も湖水を湛えたるが如かりき (6月)。伊予松山洪水, 水損あり (8月)

1, 2

1784 (天明4) 年

諸国大雨, 洪水。八戸藩, 諸川溢れて湊新町の民家全部流失す, 橋梁の被害最多く湊橋大橋新井田橋十日市橋赤味堂橋黒板橋荒井田小橋共に大小十八ヶ所落橋せり, 是川村に於いては風張橋妻の神橋金ヶ坂橋堀田ノ袋橋仲居橋嶋守橋の七橋落松館にて三ヶ所落つ田代村にては晴山通橋晴山沢橋金山沢橋落つ, 新井田川の洪水にて類家村下迄浸水せり, 其他溜池堀溝等の欠壊夥しく八戸附近村落の稗嶋三万百八十九嶋, 粟二百十二嶋を流す, 湊村にては鱈釜十一口破損, 漁船艀船小網船共に十八艘, 長苗代通の落橋十ヶ所, 用水堰破損十三ヶ所, 稗一万百四十五嶋, 粟百嶋, 軽米通, 橋廿一, 堤防一ヶ所破損, 流家五軒, 稗千七百二十嶋, 道路大破四ヶ所, 久慈通落橋大小百三十八ヶ所, 道路十七ヶ所, 潰家七軒, 流家五軒, 船流失大小二十九艘, 稗四万五千三

発 生 時 期	記 事	出 典
1785 (天明5) 年	<p>百四十四嶋, 粟三百十二嶋, 諸作物大方は浸水して収穫皆無, 之如風水害は過去百年来未曾有の惨状なりし, 損毛高, 高二万石之内一万五千三十石七斗八升 (8月) (註: 嶋は稗粟を刈取り七束を結束したものを一嶋と言う)。洪水, 水位一丈五尺, 新潟古必郡左近村破堤す (8月)</p> <p>諸国大雨, 洪水。佐渡大雨にて川々洪水, 銀山内より間之山北沢坂下濁川筋所々欠崩れ, 濁川町人家流失せし処もあり南沢川通り, 海士町川通金沢筋にも損所あり (6月)。五畿内東海道筋, 大雨洪水 (8月)。仙台, 今夏以来封内霖雨, 五十五万二千石余水害アルヲ幕府ニ聞ス。最上川大洪水, 東岸に大被害有り (8月)。岩手大洪水あり落橋三十五ヶ所, 破船三十四艘, 潰家七十一軒, 倒木三万六百五十三本, 用水堤切五十六ヶ所</p>	1
1786 (天明6) 年	<p>諸国霖雨, 洪水。讃岐大風洪水 (5月)。河州枚方の北天, 阿保谷川舟橋川等洪水田畑大に破損す (6月)。筑後川洪水, 関八州, 近在の洪水はことに甚しく, 草紙に尽くしがたしとぞ, 此水久しくたゝへたりしかば奥羽の船路絶て, 物価弥貴かりしとぞ (6月)。武野の二州, 特に洪水して荒廢言に伸かたし, 所々洪水, 先千住大橋無恙, 吾妻橋無恙, 両国橋中程の杭二三本抜, 新大橋, 中二三十間落, 永代橋, 中卅間ほど落 (7月)。稀有の洪水にて猿ヶ股の堤きれて八十余村を流し, 溺死数を知らず, 深川の大家は軒を浸し, 小家は棟を越す, 御蔵前通り船にて通行大橋東橋も追々洪水にて崩れ, 両岸通路たえしゆえ, 親族水災を案じ人心安からず, 両国広場, 馬喰町馬場二箇所<small>に</small>小屋を作り, 朝夕の食を賜ふ, 此洪水五十余日にして常の水路になりぬ (7月)。江戸川々大出水也, 下総印旛沼も新田開発之御積りにて余程埋立候得共今度之洪水にて悉くくづれ元之如く沼になれり (7月)。江戸大雨出水し, 市中到る所浸水の害を被らざる莫し, 中に就て被害の最も甚だしきを小石川, 下谷, 浅草, 本町, 深川等とし, 番町の如き高地猶且浸水床上に及ぶ所有り (7月)。牛込小日向出水, 石切橋辺, 武家方壁際迄, 人々乳丈もあり, 小石川辺, 尤洪水にて, 柳町, 戸崎町, 家潰れ, 江戸川水勢すさまじく, 橋の流れたるも有, 神田上水掛樋危く, 目白下山崩れ上水樋つぶれ, 水道一月の途絶たり, 大川千住出水, 小塚原は水五尺もあるべし, 千住大橋往来水一丈三尺と云, 浅草辺は船にて往来せり, 吉原は床上へ水上る, 雑司谷大水, 怪我人多し, 四谷, 牛込辺は高き所なれども一兩日水たゝへて難儀せり (7月)。福島県大洪水 (7月)。群馬県, 破堤, 富永村大字上五箇字権現百四</p>	1

明治以前日本水害史年表

- 十六間家屋流亡、溺死者数十名、土地は荒地と化せり、永楽村大字赤岩、土地役百五十町歩土砂侵入せり（7月）。千曲川犀川、洪水（7月）。追川大洪水（7月）。岐阜県本巣郡堤防破壊、耕地流失（7月）。洪水、千代川満水し、諸所土手切れ円通寺村の人家一軒流失す（8月）、大風雨、国安村の農家其外在々の小家多く流失し、人民溺死せる者少からず（9月）。美作洪水（8月）。佐用郡各地に大洪水を起す、大広村多賀川洪水、被害九町七反歩、山崩十五ヶ所に及ぶ（8月）。神通川、井田川、山田川洪水、野飼村より南の方川除押切凡間数一万五千間余、入川数十ヶ所、野積谷之内山中民家転倒大木倒山崩流入人馬死亡、有水損風損、都而損毛正米に而一万三千余石と云々（8月）。関口より小日向辺洪水軒をひたし、凡関八州の国々此災にかゝらぬ地なく遠所はいさしらす近き荒川筋にあたり小梅寺島須田須崎此村々に住せる者秋葉堤の上に遁れ三谷島越なんといふ町屋の者は二階より屋の棟へ這出て水の落るを待居なり（7月）。金沢、北風霖雨、稲田実ラス、水害二万二千石余アリ（夏）。宮津如願寺谷山崩大石大木流出で、大洪水にて如願寺下白柏町万屋町河原町辺迄泥土にて家を埋み死人有之、大手川筋洪水に而紺屋町田町辺は往来筋船にて通行（8月）。河内大水（6月）、武蔵下総上野下野大雨（7月）、熊本大水（8月）。五畿内西国筋九州辺洪水アリ（6月）、関東筋古今未曾有ノ大洪水ニテ、江戸新大橋永代橋流落、両国橋ハ無恙、利根川筋所々堤キレ、武総両国初メ都テ八州ノ田畑悉ク水亡シ、農民大イニ痛み（7月）。仙台大雨洪水アリ、封内及ヒ常陸下総近江ノ采邑合テ五十三万二千余石ノ損害ヲ幕府ニ聞ス（秋） 1, 2, 4
- 1787（天明7）年 諸国霖雨、洪水。新潟県南魚沼郡大洪水、河水に破堤多し（2月）。新潟県栃尾町家四十軒余流れ方々の橋々は落ち田畑山林抜け崩。愛媛県東宇和島洪水田畑損毛一万二千八百七十三石（8月）。仙台封内霖雨洪水、田三十一万三千石余損害（5月）。岩手県霖雨洪水あり、六万三千五百七十石の損毛となる 1
- 1788（天明8）年 諸国霖雨、洪水。京都鴨川桂川共に一丈余之出水にて橋々不残流失す、又勢州辺も同様之大水にて、材木六千本程積置しが流出せし（6月）。仙台山崩レ川溢レ家屋飄流人畜溺死アルヲ幕府ニ聞ス（7月）。岩手県霖雨洪水にて損毛高四万九千五百十八石 1
- 1789（寛政1）年 諸国大雨、洪水。神通川、常願寺川共ニ洪水シ郡村ヲ侵ス、就中神通川水勢猛ク、舟橋之鉄鎖断絶、堤防破壊流失、水猶漲リテ城中ニ入り、堀堀ヲ壞損ス、両川ノ害ヲ被リシ人家七百十八軒、人

発 生 時 期	記 事	出 典
1790 (寛政2) 年	員三千三百十四人 (6月)。大洪水ニ而、西川縁東九条村領堤防切放、右落下り候水ニ而、稻荷村領土砂入多、夫より竹田村領大荒ニ相成、凡三百石余損亡、又夫より上鳥羽村領控堤大切ニ而、凡千三百石余之亡所 (6月)。山城丹波大雨洪水、京都加茂川大水、嵯峨辺別テ洪水平地水高キコト一丈余ナリ、遠江参河美濃大水 (6月) 肥後国球麻郡、甚雨洪水、田島水洗并破損所、流死怪我人等有之候得共 (6月)	1, 2
1791 (寛政3) 年	大雨洪水	1
1791 (寛政3) 年	諸国大雨、洪水。関東筋風雨洪水コレアリ。五畿内西国辺モ同様ニ、風雨出水コレアリ (8月)。飛州大風雨あり、作物大損害 (8月)。高潮深川州崎へ漲りて、あわれむべし入船町九右衛門町壱町目貳町目と唱へし、吉祥寺門前に建つらねたる町家、住居の人数共に一時に海へ流れて行方を知らず、関東筋すべて洪水あふる (8月)	1
1792 (寛政4) 年	四国大風、洪水。松山大風雨にて田畑損毛五万二千六百九石余 (7月)。高知洪水風雨 (7月)。九州諸川及大井川洪水	1, 2
1793 (寛政5) 年	諸国霖雨、洪水。五月より九月まで江戸霖雨、大川出水。神戸湊川大水。岩手県大雨にて小槌川、大槌川洪水、人馬通用無之 (5月)、大雨にて釜石村、狐崎御山崩落二戸圧潰死者一名 (6月)	1
1795 (寛政7) 年	西国洪水。高知大洪水、天神橋南詰の堤切れ人家流失死人あり (8月)。長崎大雨洪水榎津町河岸人家軒を浸す、木場郷の屏風木場後山及所々の山岳を噴き、屏風木場潰家二戸、圧死二十一人、市街水を蒙るもの四十五町、溺死五人、流崩橋十八所、流家百七十四戸、流土蔵一棟、潰家三十九戸、破損家百九十四戸、橋八所、町木戸流七十六所、番所流潰九所 (7月)	1
1798 (寛政10) 年	諸国洪水。両度木曾川汎濫し萱野村無動寺村等の堤防決壊す (4, 7月)。美濃、尾張、伊勢洪水 (4月)。飛州洪水、田畑道橋の損害多し (4月)、霖雨洪水あり、田畑の損害多し (5月)。東海道筋大洪水、或は山崩れ木曾路も同断、参州辺も斯之通り故、麦作以之外悪しく流失之所も数多有之由。関東筋、信州、濃州路洪水これ有り (4月)。木曾川、恵那郡坂下村耕地八町歩流亡河川となり、加茂郡沿河の地流失家屋多く死傷二十余人其慘状言外なり前渡より笠松に至る間に堤防八ヶ所決壊し家屋人畜の流失死亡多く、羽栗郡以南伊勢桑名迄一面海の如く、長良川、境川、決堤の為加納町入水人民棟上に登れり、方県、厚見二郡長良川沿岸水量二升に上り厚見郡日野方県郡雄総、長良に破堤あ	

明治以前日本水害史年表

		り、長良にて家屋の流失十七、死者二十三人、土地の流亡砂入七十町歩あり、岐阜町北にて堤防二十間破れ各町入水流失人家八戸あり、忠節、今泉、小熊野、境島等にも百五十間乃至二百八十間の破堤あり、暴水厚見郡西南の諸村に押入家屋の流失あり、更に中島郡に至り街路の堤防を破れり、飛騨川、加茂郡下麻生、西松井にて耕地十数町歩流亡す、揖斐川、津屋川、大樽川、沿岸破岸破堤す、武儀川、武儀郡八幡村等被害少からず（4月）。再び大水あり、羽栗、海西、石津郡等入水、長谷川沿にても流家二十、潰家三十二、死者三人あり（7月）。津軽大雨にて一丈五尺程之出水	1
1799（寛政11）年		高松、仙台洪水。高松大雨洪水（9月）	1
1802（享和2）年		諸国霖雨、洪水。山城近江美濃別テ撰河大洪水（6月）。河内しめの村堤切れ込、河内半国白海となり、野里九条辺堤切れ野田橋御成橋落流もたれ込、天満橋天神橋二た間破損す（7月）。江戸近郷大水、田畠大二損ズ、相州湯治場漂流ス（6月）。本所深川辺洪水、所々橋落る、大川は両国橋のみ通行成る武州権現堂堤押切といふ（7月）。登米郡洪水溺死アリ（7月）	1, 2, 4
1804（文化1）年		松山水損。風雨破損処の御届有之尤御損毛高三万六千五十八石（8月）。千曲川、大井川洪水	1, 2
1807（文化4）年		近畿、西国洪水。山城近江美濃路攝河洪水コレ有り、右の国々田畠損毛多シ（6月）。淀川大水（5月）、六月一日より亦々大雨に而水増京都白川筋悲田院辺より切込ニ二条にては白川加茂川ひとつニ成五条にては高瀬川加茂川ひとつニ成三条五条両橋残り其外悉く流失ス桂川すじ久世ノ橋并嵯峨の橋落淀川筋高水河州茨田郡八番村より切込（切所六十間）撰河両国水入郡村数凡五百五十箇村高凡十二万石余、撰州東生郡二而桜之宮辺を態と切にて込ミ水を西海へ落ス（6月）	1
1808（文化5）年		諸国霖雨、洪水。江戸及び近国洪水溢る（6月）。佐渡大雨に而在中所々田畑其外水損有之（6月）。武蔵下総大水傷禾（7月）。五畿内并美濃近江洪水ニテ、米穀不作ノ上、今年奥州筋出水アリ。大雨降出し再洪水せしとぞ（6月）	1
1810（文化7）年		筑後霖雨、洪水。石橋口一丈五尺余（5月）	1
1812（文化9）年		仙台洪水。大雨洪水、人家十余宇流亡ス（7月）	1
1813（文化10）年		諸国連雨。日向延岡藩、五箇瀬川増水二丈三尺余に及ぶ、領内人畜の溺死、田畑の損害等甚だし（8月）。大井川・犀川洪水	1, 2
1815（文化12）年		諸国大雨、洪水。熊野大雨大洪水、川原家八十五軒流、此時本宮は格別満水、尤上の土手切故に町家水損甚し、橋流、御宮内惣門不残破損、本社階段四五段も水上る（6月）。紀ノ川洪水、家二	

百流失、荒地を生ず、田辺も水害（6月）。大垣諸川齊しく暴漲して堤上に溢れんとし、大嶋村堤上手赤鼻辺にて二百間程垂れ下り（6月）。京、江戸、及諸国霖雨洪水（5月）。滋賀高島郡洪水（6月）。長良川及支流、沿岸厚見郡にて水量八合五勺同郡早田、若木、宝田、菅生、鳥屋、方県郡長良、安八郡、氷取、羽栗郡西小熊、安八郡、楡俣にて数十間乃至数百軒決壊す、鳥屋村切入れの水は足近輪中を衝き中島郡間島村、竹ヶ鼻村にて果てし竹ヶ鼻にて死者一名流家四十三あり、尚上流山県郡中屋其他にて破堤側島入水す、津保川筋加茂郡西田原、境川筋各務郡各務村外数ヶ村にて破堤す、揖斐川及支流、安八郡落合、曾根破堤北方村を貫き同村にて家屋五十戸を流し死者十人あり、大垣町は床上四、五尺入水す、又同郡大明神、中塩喰、牧田川沿ひ多芸五日市、金草川沿ひ下石津郡福岡、大樽川沿ひ安八郡仏師川糸貫川、本巢郡小柿、相川、不破郡表佐、十六村、牧田川沿多芸郡大墳村等にて堤防破壊す、木曾川及飛驒川沿岸ひ加茂郡の地又被害あり（6月）。大和初瀬川、寺川、櫛川、岩井川、菩提山川の諸川何れも漲溢し所々に破堤を告ぐるに至れり、山辺郡番条村の南堤切れ同村内悉く浸水し又庵治、田原本八尾等にて数ヶ所水各村に浸水せり、添上郡丹後ノ庄も請堤切れ人家過半を浸し筒井は辛くも難を免れしも其下流なる平群郡に入りて破堤多く八条、宮堂、額田郡、窪田、笠月、川合、小吉田、車瀬の諸村落は悉く浸水し大河の如く数日間往来止となる、添上郡は奈良川の出水にて所々破堤し橋は悉く落ちたり、山辺郡二階堂村荒蒔総代の記録に宮堂村は大水にて深さ九尺許あり、二階堂村の南堤にて二尺あり、二階堂より宮堂へ筏渡にて行通し金剛山まで一ヶ村も残らず水押しとなるとあり、吉野郡にては吉野川の出水にて下市村は人家五六十軒流され多数の溺死人あり（6月）。山城摂津近江伊勢美濃洪水（6月）

1816（文化13）年 諸国洪水。大風雨有之、遠參始め其近国大洪水、八咫橋流落、大井川はじめ諸々川々数日支へ飛脚往来も止り、田畑土砂に埋れ窮民多し（8月）。畿内東海大水（8月）。岩手各地豪雨洪水のため落橋山崩れ等多し 1

1820（文政3）年 諸国霖雨、洪水。神戸長田天陣山、名倉池堤防決壊して下流の田地、損害甚大であった（5月）。広島明星院の西堤決壊し明星院の本門を倒し明星院町、大須賀板屋、長尾村等浸水す（5月）。島根県邑智郡大洪水（5月）。五畿内辺大水湛植付け苗等水下たに相成り（5月）、肥後筑前筑後洪水有之（6月）。肥前肥後 1, 2

明治以前日本水害史年表

		筑後大水, 嶋原山崩水涌出損漂田廬多溺人 (6月)	1
1821 (文政4)	年	仙台霖雨。封内霖雨シ, 七十五万九千三百石余損毛スル	1
1823 (文政6)	年	諸国霖雨, 洪水。江都近郷両国川, 六郷川, 玉川辺大水 (6月)。武蔵近在出水, 大川筋大水, 両国橋危く, 新大橋は半くぼみたり, 小柄原地蔵尊, 膝の上まで水あり (5月)。群馬県邑楽郡佐貫村大字須賀字大輪界, 百四間破堤, 附近の田畑約二百五十町歩砂山に變ず (6月)。千曲川・犀川洪水	1, 2
1824 (文政7)	年	諸国洪水。肥前佐賀同蓮池辺, 大雨洪水有之 (6月), 下総古河上州館林総州関宿辺, 大風雨洪水有之, 別て古河大洪水にて, 所々堤切所三四十ヶ所, 御城内本丸二之丸床上段迄も水上り申候, 仙台も城下洪水にて, 廿万石計は水亡も有之趣 (8月)	1
1825 (文政8)	年	諸国霖雨, 洪水。長良川及支流, 上の保川郡上郡歩岐島, 大島, 徳永, 河部にて耕地数町歩荒地又は川欠となる下流郡上川沿上田, 山田, 大原, 三戸等にて堤九百間切れ流失家屋八被害耕地数町歩あり, 武儀郡州原より立花に至る各村家屋過半入水流量二あり, 前野村堤二百間切入り家屋三十四戸流れ死者四十七人あり耕地の被害多し, 武儀川沿山県郡千疋加納村に切入り流家八あり, 長良川筋各務郡芥見にても流家七あり, 同方県郡にて水量一升五合に上り長良にて破堤七ヶ所あり, 流家数十死者十六人あり, 厚見郡日野, 江崎にて数ヶ所破堤す, 犀川沿本巢郡牛牧村にて破堤, 板所川筋武儀郡上牧村にも氾濫の被害あり (8月)。石川県江沼郡動橋村, 大洪水にて勅使の橋流失 (8月)。飛州出水, 所々損害あり (8月)。松山大雨出水石手川筋及外川内川所、堤切れ市の坪辺押流出合辺如海, 田畑水押砂入共二千五百四十九町十二反四畝歩, 百姓家潰半潰共三百十六軒, 田畑損毛四万四千四百二十一石 (6月)	1
1826 (文政9)	年	諸国大水。石手川洪水六合程の水にて市の坪村へ押流百姓家数、流失出合川の年去歳の切れ口外に百間程も切遍路橋も落る大洲領は若宮村中村の辺は家根迄水上り流家潰家二百余軒流死八十人余の由, 御損毛五万五千九百七十八石 (5月)	1, 2
1828 (文政11)	年	諸国霖雨, 洪水。備後福山大川筋出水, 常水より一丈余相増り (5月), 猶又大川筋出水, 常水より八九尺増と成, 追々水増, 一丈二尺余と相成, 田畑水入破損, 田畑一万七千五十四石八斗五升水入, 同千七百一石二斗六升砂入, 堤切所八百七十箇所, 同損所千八百十九箇所, 流家十三軒, 損家百四軒, 倒家三十一軒等 (6月)。筑後洪水, 宮地一丈七尺九寸, 矢原村二丈二尺余所々破損 (6月)。佐渡大雨に相成, 所々出水別而加茂雑太両郡の内金北山林下満水にて山崩川欠有之村々田畑へ土砂押入道橋用水	

		<p>路等数十ヶ所破損に及び羽茂郡村々之内にも水損有之（6月）。東海道すじ出水あり，流失死亡少なからず，またこのころ西国，北国ともに水あり（6月）。東海大水，天龍川与小天龍川溢合成湖，京師技木破屋，西海殊甚且大水，肥前，筑前，筑後倒壊漂民房五万余間，溺圧死者一万千余人（7月），西海大水（9月）。西国筋大風洪水にて廬舎転倒，人多く死せりといふ，就中肥前長崎，豊前小倉，筑前柳川など尤甚し（8月），関東は，この天災にて柳川領分に，士庶死たるもの五百人許とか聞きにき，只これのみにあらずして，東海道遠州浜松領見附辺甚しく，上野は高崎在坂東太郎の河筋，人家の屋根まで水の浸せしといふ，又陸奥は仙台領，岩城領，下野宇都宮領は洪水によりて，六万五千石許損毛のよし（7月）。子年諸家損毛高，総計五百六十三万五千七百二十九斗八升一合一勺五才聞く公儀御領の御損毛は又これに倍せりとか。長崎大風雨，市中潰家八十七軒，圧死一人，溺死廿三人，破船七十六艘，三村潰家千百八十四戸，圧死十九人，溺死八人，二百三十二艘，被害田畑四百二十二町余（8,9日），夜半又大風雨翌曉最烈し，市中潰家七十四戸，破船八艘，三村潰家五百五戸，七村潰家二百四十六戸（8月23日）。千曲・天龍・富士・安倍川洪水，破堤多し。「子年の大風」北九州の大暴風雨，死者15,000人，全壊・流失70,000余</p>	1, 2, 3, 4
1831（天保2）年	諸国大水。庄内大水（8月）。加賀，夏期霖雨シ，米穀腐枯シ，川流汎濫，田圃大害ニ罹ル多シ（夏）。松山大風雨にて一万六千二十四石余御損毛（夏）		1
1832（天保3）年	諸国霖雨，水害。新潟大水害，霖雨，水位常に高く，田畑皆無となる。佐渡大雨出水にて陣屋其外所々損所出来（8月）。関東筋洪水あり（7月）		1
1833（天保4）年	諸国大雨，洪水。大洪水となり川筋通りは不残欠込中にも古口町御役屋長押之上まで水揚り町方百余軒流失，次第次第に高水に相成出水は三丈八寸常水より四丈余之水高に相成，最上より家流れ来候事不数知其外たんす屏風家財雜具夥し，当地も内川通り葉山月山今神大雨にて諸方山沢より押来る洪水常水より一丈余之高水（6月），大洪水にて役屋前長出し十二間流失致し候（8月）。最上川を始とし御郡中川々一同に大洪水して，最上川より流家夥しく清川村も流れ，川筋の人家は更なり，田畑多く損亡して，酒田御蔵，米をぬらし，橋々且流れ且いたみ，前代未聞後世も又有べしとは思わざる程の洪水なり（6月），又も洪水あり横内川止普請いまだ全く出来ざる内又打破られて		

明治以前日本水害史年表

川筋根木橋の方へ向ひ、街道川瀬となりぬ（7月）。羽州新莊庄
 近来連年損毛打続候中には皆無同様の年柄も之有、当年も大雨
 にて最上川を始川々満水に相成中には川筋之村方人家水下に
 相成候程之儀にて破損所数多田畑水押し冠作毛之痛強（6月）。
 出羽国大洪水、奥州筋も流作（6月）、関東大風雨（8月）。筑後
 川洪水（6月）。新潟県三島郡、洪水、損毛高凡四万二千石余（6
 月）。洪水に至る、鶴岡にては家中百五十戸、給人六百七十四戸、
 町家千二百余戸浸す、酒田にては家中給人悉く被害、町家は六
 百三十八戸、倉庫のこめ三万俵を濡す（6月）。山形、非常大雨
 に而川々俄に出水就中、白川吉野川野川荒川横川水高一丈二三
 尺余に相及、人家押し流、橋々流失、田畑荒所夥敷（6月）。大雨に
 て最上川、阿寒江川大洪水に而田畑所々に而そんじ候（6月）。
 六月下旬より七月中旬迄度々之大雨に而川々出水所々山崩川
 欠出来、村々田畑水冠に相成土砂押し入道橋用水路東及破損。江
 戸及東国、北国奥羽二国大嵐、所々洪水、田畠を押し流し人多死す
 （8月）。津軽、西南の風にて雨強、田畑の外損ず（8月）。出羽大
 洪水、奥羽流作

1

1834（天保5）年

諸国大風雨。駿州富士郡天間村之儀、八日明方より大風雨強
 く、雪崩れ候体にて富士鳴り急に水押し田畑共に平押家居迄水
 入に相成り、洪水焼砂押し来り大石大木逆落に押し出し候、御料私
 領入会之村方且組合用水堰等並に岡水川辺深さ一丈八尺より
 二丈余押し埋、用水堰田畑過半潮入に相成、農家等も水入川下へ
 は人馬流死穀類流出、田畑反別破損流死人馬数等難相分御座候
 （4月）、御代官所甲州郡富士郡上吉田村、下吉田村、大明間村、
 小明間村、鹿富村、新倉村、忍草村、松山村富士山振動致し俄に
 雪代水一同に大石木砂利砂等一面に裾野へ押し出し暫時之内居
 村迄押し来り候間恐怖致し、田畑勿論百姓家迄悉く土砂埋みに相
 成、又は床上迄土砂押し上候（5月）。大風雨に而富士山大荒洪水
 に而欠畑沢大水。因府大風雨、夜間断なし大水出づ、時節不相
 応なる故川辺の百姓も多く稲を流す、大路一村にて一万七千束
 流失せし由訴出づと云ふ（10月）。讃岐大雨洪水（8月）

1

1835（天保6）年

諸国霖雨、洪水。美濃国大垣領、山中格別強雨、山抜川々急水之
 段、田畑水押し溜水下之覚、高六万三千五百石余、内四万八千五百
 石余、但七郡之内村数二百五十ヶ村（6月）。美濃の緒川汎濫
 す、就中、揖斐の水、大江杵を破りて高須輪中を浸す、之に依つ
 て高須輪中と万寿新田の間に紛争を生ず（4月）。因府大風雨、
 川外所々床を浸す（5月）。河内国狭山西除川堤防破壊し、南河
 内郡丹南村大字今井家屋五戸を流失し尚十一戸を破壊す、又間

太井川筋暴漲し、同郡農志村堤防二十五間を決す（5月）。出雲洪水、松平出雲守城下母衣町、両田町、内中原、外中原及び津田海道は船にて往来せり、稲荷山、松崎山崩れ、洞光寺倒る、実に五十年以来の大水なり（6月）。東国大雨洪水利根川坂東太郎堤押切、武蔵、下総辺田畠大に漂流す（6月）。八戸、川々出水之処常水より凡一丈八尺余之洪水と相成川筋之人家田畑へ水押入、落橋山崩川欠等に而数日之雨天続、田畑も水損に相成候、損毛高一万五千七百九十七石三升五合余、内不熟損毛高一万二千三百二十三石一斗七升八合余、流失家屋二軒、流失土蔵一棟、潰家九軒、半潰家十九軒、落橋大小十八か所、用水堤切七ヶ所、山崩大小三ヶ所（7月）。暴風雨のために熱田の海に高潮を生じ家屋を流失す沿海の新田また害を被り（7月）。仙台大風洪水、大橋落ツ、民屋二千四百十六宇流失、溺死二十七人アリ（8月）、封内、大風雨洪水ニヨリ高七十三万三千五百二十二石余損亡ス（10月）。仙台は大洪水にて御城下大橋小橋不残流失以外大変と之由、国分町は三尺五寸程之水揚り人死八百人共千人共申候（7月）

1

1836（天保7）年

諸国霖雨、洪水。福岡藩、那珂川土手切れ、住吉、薬院辺洪水（5月）。大風雨なり、かくて葛西領金町の堤きれて江戸川あふれ流れ、二万石の地水底になれる事卅日に過ぎ水戸通路たえたること十余日なり、武蔵の見沼辺は七月十八日以後八月廿三日までも水たゝへて舟筏かよはず（8月）。二百十日に当り且より大風雨、家屋を傷損す、大川通出水あり、八月先に倍せる大嵐、近在は水溢る。淀川洪水、西成郡内北中島の地水を湛へ水冠を蒙り稲作腐損す（6月）。米府洪水、宮地一丈七尺二寸、御井、御原郡洪水の損害を被りし農民へ二百五十俵貸与（6月）。佐用郡、洪水あり、西庄村六反八畝二十歩の被害ありたり（7月）。奥州村々、大風雨、川々洪水、田畑水冠り水押等に相成（7月）。香取郡、大風雨、利根川洪水あり、沿岸村落耕地を浸す、水量高九尺余（7月）。八戸藩本年春季以来天候頗る險悪にて加ふるに非常の大洪水の為終に諸穀稔らず大凶歉となり、損毛高三万五千八百五十六石八斗五升八合一内三万二千九百八十六石五斗八升不熟損毛高、二千八百七十石二斗七升八合水損高（10月）。風雨洪水（東西御普請所四千二十間破損）（7月）、大風雨洪水（円満寺橋常通寺橋共流七月此度ノ洪水ニテ田畑五万六千五百石余損毛）（8月）

1

1837（天保8）年

諸国大雨、洪水。米府、大雨洪水、宮地一丈三尺余（1月）、大雨

明治以前日本水害史年表

- 洪水、宮地一丈二尺三寸（8月）。隅田川出水し両国橋芥留杭を損す（9月）。長崎、大風雨浦上両村潰家九十四戸（6月）。 1
- 1838（天保9）年 諸国大風雨、洪水。大風雨にて松平出雲守領、丹生郡、坂井郡洪水、天王川、日野川、水溢れ、沿河の損害高二万八千六百五十五石余の内、田畑水入高八千七百十二石一斗三升九勺七才、堤壊二ヶ所、井樋壊三ヶ所、水入家百十三軒（4月）。大垣、今福村地内逆水留門樋西側の所堤切入り、水門御番所崩流る、揖斐川の大水遡上し、大垣城下町々へ水入り堤町上水深一尺余あり、三之丸御台所迄水附けり、築捨村下切入、米野村辺、二ヶ所切入る、被害反別（千七百八十町、此収穫三万五千六百石）、家屋浸水被害五千百六十九戸、商品流失千三百三十戸、工品流失五百六戸、家什物浸水被害五千百六十九戸、堤防破壊三ヶ所、損害高計金十五万五千七百七十円（4月）。福岡大洪水、川手御番所一丈八尺、宮地二丈余、人家七八軒流失、洪水三潞郡損害七百三十七町八反一畝（田畑皆損）、三千四百八町九畝（田畑水入痛畝）、百三十六ヶ所（潮堤破損）、三百九十四軒（潰小家）、五千六百八十六軒（水入人家）、十三軒（水入流失）、五十二軒（水入潰家）（5月）。隅田川出水し、両国橋芥留杭損破す（6月）、鳥取千代川洪水、所々破損（6月）。美作、香々美川洪水（7月）、美作又洪水、沿岸大に崩る（8月）。広島諸川水漲り水主町国泰寺村等の堤防越水す、封内田畑の損害高十二万七千二百余石、流屋二百二十六軒、死者四十五人（男二四人女二人）（6月）。 1
- 1841（天保12）年 諸国洪水。津輕夏中出水ニ付御損毛三步三厘。仙台、封内今秋洪水アリ、歳入三十六万五千五百石余損耗アリ（11月）。加賀、領内諸川洪水、為メニ田畠流失、損耗、高二万五千石余ナリ（5月） 1
- 1842（天保13）年 諸国洪水。加賀、川々洪水損シ箇所、田畠損毛高二万二百六十石（8月）。京師大雨鴨川溢壊東九条南水関（5月）。摂津国のうち大雨洪水あり（5月）。 1
- 1844（弘化1）年 諸国霖雨、洪水。津輕夏中大雨洪水破損所三拾四ヶ所御損毛四歩二厘九毛。総州古河辺大風雨洪水（4月）。利根川洪水、権現堂堤切れ江戸浸水。 1, 2
- 1845（弘化2）年 北国洪水。北国筋大風雨洪水（8月）。 1
- 1846（弘化3）年 諸国霖雨、洪水。大雨弥降り続き洪水溢れ出て、下総羽生領利根川通り堤の辺、九尺余りと聞しが、葛飾郡権現堂村より六里上、本川股村堤切れ洪水漲り出て、千住辺家屋を浸し、小柄原の石地蔵尊、肩より上のみあらはる箕輪の辺、一時に水溢れ、床の

上三尺ばかりに及ぶ、住居ならずして外へ逃げ退くとて、溺死のものもありしとぞ、日本堤より見るに蒼海の如し（6月）。利根川満水、二合半小合の溜防ぎて居れど、土手覚束なき由、本所北割下出辺、少々つつ出水、水増来る、床低き処は皆水つく、権現堂堤切れ水溢るゝ由（6月）。戸田川、六郷川、其他川々出水あり（6月）、本所、深川、亀井戸、亀有、小梅、柳島、墨田村のあたり出水あり（7月）。濃州越州大風雨洪水（4月）。江戸川、荒川、多摩川出水す、権現堂川、江戸川、中川堤防に決所洩所を生じ、武蔵国埼玉郡本川俣村に於ける利根川堤防決潰す、淵江領長上門右衛門新田の中川堤防決潰したる、同時に荒川筋に於ても河水漲溢して、千住河原、小塚原、箕輪辺を浸し、千住宿三丁目の堤防潰え、小菅附近より本所大部分深川一部に掛けて浸水し、府内猶床上三尺に及びたる所有り（6月）。利根川洪水、常総両国の山脈を限り沿河の村落は毎戸床を浸し作物悉く被害し十六島の如きに至ては水上に点ずるが如く堤防破壊し、河水の量凡そ一丈余、家屋の流失するものあり（6月）。利根川筋の水漲りて十合に及び、埼玉郡本川俣村、字長宮の堤壊る、長さ凡そ百六十間、権現堂の堤崩る一ヶ所、埼玉郡羽生町場村、僖右衛門新田上俣村与右衛門新田、小浜村の田畝は、本川俣村の堤壊れて背水入れとなり其の深さ床上二尺余、羽生町場村にて塩流失一千五百俵、鯛同八十俵、材木同代金八十兩分、此の他每家多少の流失あり、忍領、潰家二十一軒、半潰家十九軒、田畝水入砂入等合四万八千石余、松平大和守領、田畝石砂入及等七十九ヶ村、潰家二軒、水入家五百六十二軒、黒田豊前守領、樺沢郡六ヶ村の内、堤防決潰四ヶ所など、下野、戸田山城守領、鬼怒川、荒川、田川、姿川、小倉川、己波川、思川、近年に稀なる洪水にて、常水より高き事一丈七尺に及ぶ、河内、塩谷、都賀、芳賀四郡の内、潰家十四軒、流失家一軒、田畑石砂入及び水入等合二千五百八十二町歩許、細川長門守領、芳賀郡流失家一軒、堀田摂津守領、安蘇郡の内水入家九十一軒、潰家一軒、水満の田畑多し、本荘安芸守領、梁田郡の内、田畑悉く水入、低地は水満、戸田長門守領、足利郡梁田郡の内、渡良瀬川溢れ、堤防決壊二百間余、田畑水入の所多し、鳥井丹波守領、都賀郡壬生の川々常水より高きこと一丈三四尺、田畝共に水入、上野館林領、利根川筋川俣村の上一里余五ヶ村の堤防及び渡良瀬川の堤防決壊、城下近傍洪水、其の水床上に及ぶ、黒田豊前守領、山田郡の一ヶ村内、堤防決壊一ヶ所、民家流失田畑多く水損、下総古河領、常水より高きこと一

明治以前日本水害史年表

- 丈九尺七寸に及び（6月）、更に一丈八尺九寸五分に及ぶ（7月）、城内土屋敷潰家五十一軒、郷村にて水田畑水入高二万七千二百余石（村数百ヶ村、反別四千七百八十六町余）、流失家五十一軒、潰家百十五軒、半潰家三十九軒、水入家三十三軒、結城、猿島、葛飾の三郡は、鬼怒川の洪水にて沿河の諸村残らず水滴、又沿河にあらざる諸村にても、野水湛水の為に損害を被り、堤防所々破損、田畑砂入り、川除は大抵流失せり、上総大多喜井伊南領、水高きこと床上より四尺、低地の処は七八尺に及ぶ、城下、水入高八十六軒、郷村、水入家六十軒、同土蔵二十一棟、潰家五軒、常陸細川長門守領、筑波郡河内郡の内、七月洪水にて田畑の水損せしもの多し、磐城領、洪水、田畑水入高一万二千七百五石五斗七升（村数五十二ヶ村）（6月）、岩代、白川にては、阿武隈川常水より高きこと七尺許（6月）、美濃大垣領、大雨にて田畑水入高四万七千二百石余（七郡のうち二百三ヶ村）、同水滴及び砂入荒亡高一千六百七十石、潰家四軒、半潰家六軒（6月）。群馬県邑楽郡、富永村大字上五箇字駒形百四十六間破堤、家屋十一棟流亡、溺死一人、土地二百九十五町歩荒廃せり（6月）。仙台、封内秋穫三十九万五千五百六十石余水損スル。関東洪水なり（7月）。加茂川大堰川大洪水、加茂川水増コト一丈余三条橋中程三間計落橋柱一本折（7月）。「丙午の大水」利根川・賀茂川洪水、破堤多く江戸浸水 1, 2, 3, 4
- 1847（弘化4）年 諸国大雨、洪水。仙台、封内四十一万八千五百石余水損アル（4月）。大風雨、勝浦吉野諸川水溢傷稼（8月）。木曾川洪水（6月）。三河、遠江の国洪水にて矢作橋損じて往来を絶ず（5月）。近江大水、信楽溺人畜、宇治川大溢、醍醐山科深草諸山崩出水、丹後由良川大漲多溺人（6月）、鴨川桂川大溢、堡東街上水深三尺、是日紀伊尾張大水、和歌山多溺人（8月） 1
- 1849（嘉永2）年 諸国霖雨、洪水。八戸久慈通の山々崩壊し諸川水漲り家屋の流失人馬の死亡夥しく被害の報告、流失家屋十三軒、潰家廿九軒、半潰家六十九軒、溺死者廿一人（男十人女十一人）、高二千九百五十一石七斗五升（8月）。仙台、封内秋穫五十四万七千七百石余水損 1
- 1850（嘉永3）年 諸国洪水。仙台今年封内五十九万三千七百石余水損。木曾川以下の諸水汎濫して、堤防を破壊す（7月）、大風雨、高潮あり、海西郡八穂新田の堤防破壊す、之がため民家の流失倒潰せるもの四千九百七十軒、田畑の損毛、凡高五十九万九千七百二十一石に達す（9月）。京師大風雨、鴨川大溢（9月）。古来稀之大雨洪水にて天橋立二ヶ所切流御領分中村々荒地出来（9月）。

発 生 時 期	記 事	出 典
1851 (嘉永4) 年	天龍・千曲川洪水。「安芸国大風雨・洪水」田畑損耗298,000石, 流失・倒壊家屋7,983, 死者60 諸国大雨, 洪水。富山, 各川洪水氾濫し, 市中大半水に浸さる (7月)。加賀, 諸川洪水, 市中水横流し為めに田畑水損六万八千二十二石損失す (7月)。飛騨, 大雨出水神通川沿岸損害多し (7月)。山形, 大雨, 馬川大洪水堤防欠壊して濁流市内を貫通す (7月)	1, 2, 3 1
1852 (嘉永5) 年	近畿洪水。山城丹波大和大風雨鴨桂淀木津諸川大溢皆決, 流三条橋十八間, 五条橋三十六間, 多倒五条石架, 民多溺死于鴨川者四十人, 流淀大橋若干間, 紀伊大水, 漂壊三百許戸 (7月)	1
1854 (安政1) 年	仙台水損。今茲封内五十二万石余水損アルヲ幕府ニ告ク	1
1855 (安政2) 年	富山出水。神通川出水, 一丈二尺七寸, 浸水三千五百戸 (5月)。 千曲・富士・安倍・天龍川洪水	1, 2
1856 (安政3) 年	関東大雨。近来稀なる大風雨にて, 海嘯により逆浪漲りて, 大小の船を覆し或は岸に打上, 石垣を損じ洪波陸へ溢して家屋を傷ふ, 人家所々潰たる数ふべからず, 家作の新しきも潰れしあり, 凡この度の風雨近郊は更なり, 東海道駿河の辺より, 信甲の辺所々にも及びし由 (8月)。「関東大風雨」本所・深川出水, 築地本願寺全壊	1, 2
1857 (安政4) 年	諸国大雨, 洪水。越後信濃大雨洪水 (4月)。仙台, 今茲封内霖雨川溢れ, 霜雪烈風あり, 七十万七千三百八十石余, 損耗を幕府に告く。長野県福島宿八沢川洪水, 八沢橋流落, 川原町にて五戸流失す八沢より川上まで三分通荒廢す (5月)。長野諏訪, 大雨ふり続き何年にも不覚大満水いたし上川筋一円切口ニ相成り並赤田土手崩れ中筋村々家居ニ水押懸け別而福島文出小川辺者舟ニ而飯ヲ焚漸暮し居候 (5月)	1
1858 (安政5) 年	諸国連雨, 洪水。福岡県, 今町黒門際迄水先參, 宮地一丈八尺, 田町へ水先来る, 宮地さらに二丈五尺 (5月), 筑後川大洪水, 宮地一丈四尺 (7月)。静岡県志太郡瀬戸川堤防切れ木町, 川原町, 横町, 蔵小路辺何れも床上に水上る (6月)。磐田郡, 原野谷川大出水, 堤防破潰, 床上浸水あり (6月)。新潟県三島郡, 洪海川出水, 田地一円河流に化す (5月)。群馬県山田郡, 渡良瀬川稀成洪水にて只上村地内字五輪台即ち矢場水門の上流用水引入口にして沿岸堤防長百三十間余破壊し其水勢激流直下同所は本川となり内郷一円浸水をなし土地崩壊は勿論下野国, 梁田郡より邑楽郡へ溢水氾濫せり (7月)。仙台, 今茲封内氣候不順, 六十万六千三百石余水損ヲ幕府ニ告ク	1

明治以前日本水害史年表

1859 (安政6) 年	諸国霖雨。仙台, 今年封内烈風甚雨, 七十万三千三百七十石余水損害アルヲ幕府ニ告ク。加賀沢村山嶺崩壊神通川ヲ塞ク, 此日諸川洪水, 田畠損害多シ (5月)。武蔵, 大風雨, 所々出水あり, 近在も又出水ありて, 塀を崩し田圃を傷ふ (7月)	1
1860 (万延1) 年	諸国連雨, 大水。仙台, 今年封内大風洪水, 五十四万五千五百石余損耗ヲ幕府ニ告ク。東北大風雨所々損所多し (7月)。暴風雨のため諸川汎濫し, 伊勢湾に高潮あり, 堤防の破壊等のために水災を被る, 其高凡十二万石に達す (5月)。近江蒲生郡, 大雨にて洪水 (5月)。近江山城大水, 膳所城, 大津市唐崎松, 瀬田橋並浸半 (5月)。長崎, 大雨出水 (4月)。千曲・犀・天龍川洪水	1, 2
1861 (文久1) 年	江戸, 仙台霖雨。大洪水仕, 当国奥筋通大出水ニテ, 屋敷々ニ積置, 稲にやう相流し川筋橋々勿論一字流失仕, 其上人馬多ク死, 何年ニモ無覚程ノ大水ニテ熟作事ニ御座候得共, 米穀高直に相及 (10月)。仙台, 今年封内氣候不順, 五十一万三千五百石余ノ水損ヲ幕府ニ告ク	1
1864 (元治1) 年	仙台洪水。仙台, 封内大雨洪水, 五十七万二千は八百石余損害, 男女九人溺死ス (8月)	1
1865 (慶応1) 年	諸国連雨。仙台, 封内五十九万石余水旱アルヲ幕府ニ告ク。長崎, 大雨所々破損 (5月)	1
1866 (慶応2) 年	諸国連雨, 洪水。仙台, 封内八十六万三千余石水旱ヲ幕府へ告ク。飛州大洪水, 後年まで之を寅年の大水と呼ぶ (8月)。淀川増水し, 天満橋, 安治川橋, 船津橋皆墜ち, 鴨野より京橋口筋鉄門に至る間に伏せたる悪水樋の破損するや, 鴨野, 中浜, 永田, 本庄, 今里, 深江, 森河内等の諸村, 忽ち浸水して一面の湖水となりぬ (8月)。大雨鞍馬川洪水同村民家流損, 東川流来旨尤損人命由也, 桂川堤切込村中洪水五尺余, 洪水之継キ地久我村庁司一条久我等満水之旨貧家増損毛難洪之至也 (5月)。鴨川頗洪水 (6月)	1

註

年表中の出典1～4は, 1「日本旱魃霖雨史料」, 2「明治以前日本土木史」, 3「日本災害史3-気象-」, 4「防災事典」を示している。また, 年表中の句点(ピリオド)は, この年表作成に用いた4点の文献が引用している原典の違いを示している。また, この年表中に引用している文は, 水害に焦点をあわせて適宜省略している。詳細については, 引用したそれぞれの文献にあたって頂きたい。

参考文献

荒川英俊・大隈和雄・田村勝正編 (1964) : 『日本旱魃霖雨史料』 410. 気象研

究所

土木学会（1973）：『明治以前 日本土木史』 1745. 岩波書店

下鶴大輔・津村建四郎・宮澤清治監修（2001）：『日本災害史3－気象－』 191.

日本図書センター

日本自然災害学会監修（2002）：『防災事典』 543. 築地書館